針と征く

〈登場人物〉

有野（呪いグッズ店店長　寅年の42歳）
乙子（女子高生　寅年の18歳）
俊子（店のバイト　寅年の54歳）
由美（店のバイト　寅年の30歳）
佳苗（店のバイト　寅年の78歳）
幸彦（亥年の21歳）
女１（自衛官の母）
女２（自衛官の妻）

１

『出征兵士を送る歌』（＊１　林伊佐緒とボニージャックスによるキングレコード版）が流れる。

我が大君に召されたる
命栄えある朝ぼらけ
讃えて送る一億の
歓呼は高く天を衝く
いざ征けつはもの日本男児

青年（幸彦）。学帽、学生服、ゲートルを巻き軍靴。詩（＊２）の朗読。

青年　ぼくもいくさに征くのだけれど……街はいくさがたりであふれ。どこへいっても征くはなし。勝ったはなし。三ヶ月もたてばぼくも征くのだけれど。だけどこうしてぼんやりしている。ぼくがいくさに征ったなら一体ぼくはなにするだろう。てがらた

てるかな。だれもかれもおとこならみんな征く。ぼくも征くのだけれど、征くのだけれど……。

『出征兵士を送る歌』大きく。

輝く御旗先立てて
超ゆる勝利の幾山河
無敵日本の武勲を
世界に示す時ぞ今
いざ征けつはもの日本男児

青年　ぼくもいくさに征くのだけれど、なんにもできず、蝶をとったり子供と遊んだりうっかりしていて戦死するかしら。そんなまぬけなぼくなので、どうか……。

銃声。
暗転。

2

雑居ビルの一室。ネット販売の呪い（まじない）グッズ店『萬多璃守』（まんたりす）の事務室・倉庫兼作業場。
壁には等身大のボージョボー人形（男女）をまん中に、世界の様々なまじないグッズが吊るされている。
棚にはずらっと中古のダルマが並ぶ。
大中小とあるが、目が入ったものはない。両目とも白く塗りつぶされている。
中央に大きな木製の作業台。
制服姿の少女（乙子）がパイプ椅子に座っている。ガードマンに捕まった万引犯のようにしょぼくれている。

有野（乙子に）もしもしカメよ。
乙子　え？
有野　カメさんよ。
乙子　……私のことですか？

有野　他に誰かいる？　今日、店、休みなの。
乙子　私、カメじゃないです。
有野　一応人間のメスの高校生みたいね……名前よ、あんたの名前。カメと名付けました。カマではありません。
乙子　そんな名前じゃないです。
有野　でも名乗るつもりなんてないでしょ、さらさら。
乙子　……。
有野　呼ぶのに不便だからさ。それとも、「ちょっと、そこのチンケな小娘！」とか呼ばれたい？
乙子　チンケって？
有野　サイコロの一の目。赤い日の丸の。バクチ業界ではチンっていうの。貧相ってことよ。
乙子　勉強になります。
有野　とりあえずビールの、泡ぶくの名前よ。仮の名、仮名。カメイ？　カメ……あら、面白い（笑）。
乙子　カメなんて変な……。
有野　なにい！　変だとお！
乙子　変じゃないですか？
有野　カメのどこが変だ。
乙子　どこって……。
有野　ざけんなよ、てめえ。聞け！　私のばあちゃんの名前はな、亀乃っていうんだ。
乙子　カメノ？
有野　亀戸天神の亀に乃木大将の乃だ……やさしいばあちゃんだった。私は何を隠そう三文安いばあちゃんっ子だ。亭主を早くになくし女手ひとつで八人の子供を育てあげ、病まずにボケずにぽっくり米寿で逝った年寄りの鑑みたいなばあちゃんだ。もったいなくも畏くも、亀乃ばあちゃんと同じカメをつけてやったのに。貴っ様あ、許さん！　歯をくいしばれっ！（殴る真似）
乙子（おびえて）ごめんなさーい。
有野（あっさり）嘘だよ。
乙子　嘘なの？

有野　ばあちゃんの話はほんとだが、あんたをカメと呼んだのは、とりもなおさずあんたがカメだったからさ。

乙子　へ？

有野　悪い連中に捕まって喰われるところだった危機一髪のカメを助けてやった私は、平成のウラシマタロウだ。えっへん。

乙子　私は別に……。

有野　危ないとこじゃなかったっていうの？あんたにしつこくとりついてた二人組の正体を知っておいでかい？

乙子　映画のプロデューサー様（もらった名刺を見せる）。

有野　アダルトビデオのね。

乙子　もう一人はディレクターだって。

有野　馬鹿。あの若い方は業界でも有名なデカチン男優だ。

乙子　スカウトされたんです。水着の撮影はあるみたいだけど、そのくらいなら……。

有野　馬鹿だね、ほんと大馬鹿。あんたの学校、偏差値いくつ？　二桁ないでしょ。カタカナ職業の名刺出されると、コロッと信じちゃうんだから。そんなこといえば私なんて、マネージャーでコーディネーターでデザイナー様よ。

乙子　すごいですね。

有野　全部自称。カタカナ職業なんてパイロットと男のアナウンサー除いてたいがいいかがわしいものよ。

乙子　タクシードライバーは？

有野　運転手でいいじゃない。ドライバーなんてカッコつけるから事故が増えるのよ。まっとうな職業はみんな漢字で、たとえばお尻に「し」がついてるの。医師、教師、弁護士、公認会計士、税理士、建築士、調理師、不動産鑑定士……。

乙子　詐欺師。

有野　ありゃ犯罪者だ。

乙子　お医者さんはドクターって。

有野　医者が「私、ドクターです」っていう？

言わないでしょ。世間でドクターなんて呼ぶのは看護婦くらいよ。あいつらはさ、ドクターとナースという隠微な関係を周囲にひけらかしたいからそう呼ぶだけなの。虎の衣を借るコンコン狐。

乙子　……鍼灸師。

有野　鍼灸師？　ああ、鍼の。横文字にしたら何ていうのかしら。針はニードルだからニードリスト？　あらいやだ、ヌーディストみたい。

乙子　専門学校、あるんです。

有野　何にでも専門学校ってあるのね。占い師や探偵の専門学校なんてのもあるんでしょ。ＡＶ女優のもあるかも。

乙子　パンフレットとりよせたんです。

有野　ＡＶ女優の？

小女　鍼灸師の。でも授業料、すっごく高くて。入学金だけで八十万するんです。

有野　それであいつらにつけこまれたのね。あんた、一回の撮影で百万とか言われたんでしょ。あのね、どこの世界にあんた程度の顔で、あんた程度のカラダで（つつく）、それも水着になったくらいで百万も出すとこがあると思うの。

乙子　もしかして裸になるんですか？

有野　裸も裸、すっぽんぽん。そいでもって股倉おっ拡げられ、あんなこともそんなことも。おお、恥ずかし。

乙子　私、そういうのはまだ。

有野　だから百万っていったのよ。わかるのよ、やつらには。処女のにおいが。あんたの商品価値はね、若いってことと生娘だってことだけ。まあ遅かれ早かれ、さかりのついたノータリンの同級生にでもやられちゃうんだから、百万円もらってそれで専門学校の学費が出ればラッキーと思うのかもしれないけど……いい？　ＡＶってね。今、全部見えちゃうの。モザイクあるけど、やったら薄くて何も無いのと同じ。オープンなの。丸出しなの。

乙子　全部ですか。

有野　そう全部、アップで。いつのまにか解禁になっちゃったの。この国はそういうなしくずしが大得意なの。

乙子　アップかあ。

有野　あんた、いいの？　それが日本中のレンタルビデオ屋に出回るの。何万、いや何十万の男どもがあんたのあそこを……。

乙子　何十万……。

有野　まさか露出狂じゃないでしょうね……今じゃ国外にもたくさん出てるって話よ。大和撫子の裸はグローバルなの。

乙子　どうして私を助けたんですか？

有野　え？

乙子　あの人たちにお金あげてまで。

有野　あれ？　あれ、地域振興券。でも千ポイントあったのよ。私、あれでパーマ屋へ行こうと思ってたのに。

乙子　すみません。

有野　いいのよ。

乙子　でもどうして。

有野　もち、竜宮城に連れてってほしくてさ（笑）。

乙子　乙子です。

有野　オトコ？　あんた、女でしょ。（じろじろ見て）違うの？

乙子　名前です。乙に子（空中に書く）。

有野　甲乙の乙？　焼酎乙類の乙？

乙子　はい。

有野　オツな名前ね……えっ、それって乙姫さまの乙じゃない！

乙子　知りません。偏差値低いので。

有野　オトコ……オトコか。

乙子　あの、あなたは……。

有野　私？　……こういうものよ（名刺を渡す）。

乙子　呪い（のろい）グッズの店！

有野　まじないって読むの。

乙子　まん、まんた……。

有野　まんたりす。

乙子　何ですか？
有野　お守りのことをタリスマンっていうの。タリスマンタリスマンタリス……。
乙子　マンタリス。
有野　察しがいいじゃない。
乙子　『萬多璃守』店長、有野梨也（ありのなしや）……。
有野　ありやなしやでも可……もち、ゲイ名。みんな、有野のママって呼ぶわ。
乙子　ありのまま……。
有野　れりごー。
乙子　ここ、お守り屋さんだったんですね。
有野　何だと思ってたの？
乙子　ダルマ屋さん。
有野　そのまんまね。
乙子（男女ペアの人形を見て）そうか。これ、ボージョボー人形だ……でっかいな。
有野　うちのオリジナルなの。結構売れたのよ。
乙子　確か南の島の……。
有野　サイパン。チャモロ族のお守り。ほんとはつる草の実とココナッツの繊維でつくるんだけど。ヤシの実を使ってみました。
乙子　恋愛がかなうとかいう……。
有野　恋愛や結婚運だけじゃないわよ。仕事運、健康運、金運アップから交通安全まで何でもお任せ。
乙子（つぶやく）しかし、こんなのどこへ置いとくんだ。ベッドの下か？　怪しすぎるな。体位研究の人形みたいだ。
有野　手や足の結び方でいろいろとご利益があるの。利き目がなかったら満月の晩に結び直すの。
乙子　子の刻に？
有野　呪いじゃないっ！
乙子　恨みはらさで……。
有野　ねえ、乙子。あんた、暇ならバイトしない？　お金、いるんでしょ？
乙子　そのバイト、すっぽんぽんにならなくてもいいですか？

有野　馬鹿、あたりまえでしょ。

乙子　やります。バイト代、地域振興券じゃなければ。

有野　れりごー。

暗転。

3

同じ場所。作業台。

乙子とアルバイト仲間の俊子と由美の三人、中古ダルマの再生作業中。

俊子　オトちゃん、そこ、もうちっとばっかし厚く塗らなきゃ……ほら、下が透けちゃってるでしょ。そりゃ客は再生品とわかって購入するんだけど、気は心なの。下心と下着は透けちゃダメ。

乙子　はい。あの……。

俊子　わからないことは何でも聞いて、俊子先輩に。

乙子　あの、なぜ俊子先輩はわざわざもう片方の目を入れてるんですか？　作業を増やしてるだけのような気がして……。

俊子　いい質問ね。俊子先輩、答えましょう。ここにあるダルマはすべて、願いがかなわなかった残念なダルマです。両目を入れることのできなかったダルマです。落選した議員のダルマもあります。選挙に落ちた議員なんて空っ穴ですから、百円でも買い取りに出そうとします。

乙子　これ、百円なのか……。

俊子　だから、もし片目だけ塗りつぶしたらどうなるでしょう。それは願いがかなわなかったダルマを再生したことになります。それはつまり、ご利益がなかったダルマってことでしょ。

乙子　なーるほど。

俊子　だから両目を入れ、一応大願成就ということにします。形式主義と言うなかれ。

そうしておいてから改めて両方塗りつぶす。これなら縁起が悪くない。いやかえって縁起がいい。あやかれるわけですから。厚く塗ればそんなのわからんじゃないかというかもしれませんが、それは気は心。メーカーの真心というものなの。

乙子　でも再生品なんて誰が買うんですか？

由美　わっ（泣く）。

俊子　（とがめて）オトちゃん。

乙子　私、何かまずいこと……。

俊子　由美ちゃん、結婚するのよ、もうすぐ。

乙子　あ、おめでとうございます。

俊子　だから今、気持ちが不安定になってて、そういうのほら、マリ……マリ。

乙子　マリッジブルー。

俊子　そのブルーなの。気持ちがまっ青なの。そんなときにデリバリーのないこと言っちゃ、かわいそうでしょ。

乙子　デリカシーですか。

俊子　そうよ、そのデリカ。

乙子　私、何て？

俊子　再生品なんて売れるかって。

由美　わっ（泣く）。

乙子　もしかして再婚ってこと？

由美　……出戻りなの。再生品なの。相手は六つ歳上だけど初婚なのに……どんなに厚く塗っても、汚れた過去が透けてる気がして。

乙子　由美さん、色白だから。

俊子　そういうことじゃなくて。

由美　もちろん二度目だってことは承知してるけど、すごく真面目でいい人だから、私何だか申し訳なくて。

俊子　何言ってるの由美ちゃん。今時の娘なんてね、結婚する前にさんざん遊びまくって、「経験人数？　八人くらいかな。えー、少ない方ですよ。普通、二桁じゃないですか」なんてヨタ飛ばしながら、真っ白なウエディングドレス着て図々しくバージンロードを歩くのよ。（乙子に）ねっ、そう

よね。

乙子　ええ、そうです。

由美　……オトちゃん、処女だもの。

乙子　はあ……。

由美　いいなあ、処女。処女の再生ってできないのかしら。あそこ、縫い縮めて……ねえ俊子さん、やってくれない？

俊子　馬鹿言ってんじゃないの！

由美　彼、たぶん童貞なんです。

俊子　たぶんって、あんたたち来週結婚するのに……まだなの？

由美（頷く）

乙子　ほんとにあるそうです。

俊子　何が？

乙子　その、縫い縮めるってやつ。レディスコミックに。

由美　ほんと？

俊子　オトちゃんやめて。この人、本気にするから。もう、教科書がわりにレディスコミックばっか読んでたんでしょ。

由美　糸が……。

俊子　まだ言ってる。やーよ、私。

由美　赤い糸。

乙子　小指と小指をつないでる？

由美　私、今度の人とはほんとにつながってると思うんです。赤い糸が。

俊子　そう、よかったじゃない。

由美　なのに、私、再生品で。

俊子　またそこへ戻るか。

由美　私がもしさらさらの新品だったら、彼、喜ぶんでしょうね。

俊子　気持ちよ、気持ち。気持ちが大切なの。由美ちゃん、気持ち……ほら、オトちゃんも何か言ってやって。

乙子　気は心です。

俊子　もうちょっとうまいこと……。

乙子（ダルマを転がし）由美さん、これこれ。七転び八起きです。

俊子　趣旨がずれてない？

乙子　これ、なぜ八起きなんでしょうね。七

回転んだら普通七回起きるわけでしょ。

俊子　そういえば一回多いわね。

乙子　……わかった。

俊子　わかったの？

乙子　たとえば生涯に八回結婚した人がいたとします。つまりその人は七回離婚してるわけで、だから七転び八起き。

由美　そんなにしてません！　一回だけなのに、一回転んだだけなのに（泣く）。

俊子　オトちゃんったら！

佳苗、入ってくる。

佳苗　なーに、昼間っからメソメソして……（乙子に気づき）あら、この子？　有野のママに助けられた、ワニザメに毛をむしられ丸裸で泣いてたウサギちゃんって。

乙子　裸になるところを助けられましたが、ウサギじゃないです。カメです。

佳苗　駆けくらべしたの？

俊子　ウラシマタロウのカメよ。でもこの子はカメでなくて乙姫さんでした。

乙子　乙子です。

佳苗　オトコ？　ママのお仲間？

俊子　甲乙の乙に子と書くの。

佳苗　乙種合格の乙ね。尿酸値が高いんだって？

乙子　偏差値です。それに低いんです。

佳苗　そりゃよかった。痛風はね、風が吹いても痛いんだって。尿酸の結晶が針みたいになってチクチクするらしいの。私はね、血糖値が高いの。糖尿。

俊子　（乙子に）佳苗さん。

佳苗　年金が少ないからバイトして小遣いかせがなきゃならないの。あんたも今からしっかり貯めときなさいよ。あんたがバアさんになる頃には、もう年金なんて影も形もないんだから。

乙子　そうなんですか？

俊子　そうみたいね。

佳苗　だからといって安易な方法でかせごうと思っちゃだめよ。

乙子　でも私、何にもできないし。

佳苗　安易な方法でかせごうとすると、必ずつけがくるわ。結局大損をすることになるの。金銭的にってだけじゃなく、人生を棒にふっちゃう。とりかえしがつかないってやつ。人生、ほとんどのことはとりかえしがつくんだけど、とりかえしがつかないことも結構あるのよ。これ、喜寿を過ぎた年寄りの教訓。

由美　わっ（泣く）。

俊子　由美ちゃん、あなたのはとりかえしのつくことでしょ。

由美　だって……。

佳苗　どしたの？

俊子　結婚前でパンパースなの。

乙子　ナーバス……。

佳苗　ねえ由美ちゃん、あんた、前の亭主と何回くらいやった？

由美　え？

佳苗　あれを。

俊子　佳苗さん、そんなこと。

佳苗　几帳面なあんたのことだからちゃんと数えていたでしょ。だったらね、今度のお相手にその回数を正直に告白するの。

俊子　由美ちゃんのお相手、三十六歳で童貞なんですよ。

佳苗　そんなこと構わないわよ。かえって好都合。それでね、一日でも早くその回数を超えてくださいってお願いするの。

俊子　とりかえしがつくって、そういうことじゃ……。

佳苗　きっと、「僕、そんなのすぐに超えてみせます。やります。頑張ります」って言ってくれるはずよ。そういう男気がある人じゃなきゃ、あんたまたしくじるよ。

俊子　男気って……。

乙子　私もそう思います。

佳苗　でしょ。

俊子　オトちゃんまで。処女のくせに。
由美　わかりました。
俊子　由美ちゃん。
由美　私、告白します。それから今度会ったら早速やってもらいます。たくさんやってもらいます。もう、毎日やってもらいます。
俊子　極端なんだから。
乙子　縫い縮めるよりずっといいです。
佳苗　縫う？　何を？

有野、事務室から出てくる。

有野　もう、昼間っからやったのやらないのってお下劣な話題で盛り上がって……由美、ほんとに回数なんてわかるの？
由美　私、日記つけてますから。
有野　日記にセックスの回数つけるなんて、あんたは小林一茶か。
俊子　イッサって？
佳苗　俳句の人、五七五の。
乙子　やせ蛙、負けるな一茶ここにあり。
有野　江戸から信州の田舎に引き籠って、若い娘と結婚したの。このジジイがなんちゅうか絶倫でね。やりすぎで相手が病気になっちゃったというくらい。そいで日記に、昨晩は何回やったとか書いてたんだって。それがまあものすごい数で……。
由美　そんなにやってません。大体……。
有野　いいわよ、報告してくれなくて……そうそうアルバイトのみなさんにグッドなニュースです。自衛隊の中東派兵が正式に決まりました。イスラム国征伐の多国籍軍。アメタロウさんの家来になって鬼退治に出かけます。政府は一応、言い訳めいたことほざいてるけど、要するに今度はちゃんと弾が飛んでくるところへ行かせるってことです。
佳苗　とうとうなんだね。
有野　で、忙しくなります。
乙子　自衛隊がダルマ買うんですか？

有野　買うわけないでしょ！　血ダルマになるって、縁起でもないわ。お守りよ。ここはまじないグッズの専門店なんだから。

佳苗　千人針。

乙子　せんにん……空飛んだりする不老不死のおじいさん？

由美　千人は人の数よ。

乙子　千人の鍼？　千人の鍼灸師？

俊子　俊子先輩、説明しましょう。一メートルくらいの白い布に赤い糸を縫いつけて結び目をつくるの。千人の女性が一人一針ずつ。これを出征する兵隊さんがお守りにしてお腹に巻くの。

乙子　おなかを冷やさないように？

佳苗　弾よけ。

俊子　戦場なんだから鉄砲の弾がびゅんびゅん飛んでくるわけでしょ。それに当たりませんようにって。

乙子　そんなに当たるものなんですか？

俊子　当たるでしょ。いっぱい飛んでくるところなら。

佳苗　下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる。

由美　街頭に立って道行く女性に一人一針ずつお願いするのが本式なんだけど。

乙子　赤い羽根共同募金みたいな？

俊子　そんなのってたいへんでしょ、時間と手間が。そこへもってきて最近の若い人は針持ったことないなんてのが多いから。玉止めすらできない子もいるし。

乙子　私、家庭科好きでした。刺繍とか。

俊子　そんな難しいのじゃないの。こうやって、こうやるだけ（しぐさ）。超簡単。

乙子　それを、ここにいるみなさんでつくるんですか？

佳苗　そういうこと。

由美　アルバイト代とは別に手当が出るの。一針、十円。

乙子　安いんだか高いんだかよくわからないけど。

有野　ほら、これよ。

有野、千人針の見本を取り出して乙子に見せる。

乙子　（手にとって）わっ、何か不気味だな。ひさながうんぶって何ですか？

俊子　武運長久。こっちから読むの。勝ち戦が続きますようにってこと。

乙子　何か動物のデザインになってるな……猫か？

由美　虎よ。

乙子　タイガースの応援グッズになる。

有野　千人分だから一万円の工賃。それを三万で売るの。郵送料、消費税は別。

乙子　三万……。

有野　酉の市の熊手だってそのくらいするのあるわよ。あんなの、福をかき集めるなんて欲深でムシのいい代物でしょ。こっちは命を守ってあげるんだから、三万なんて安すぎるわよ。これが三千円なんていうと、かえってご利益疑われちゃう。でも十万なんてふっかけると、ちょっと手が出ないって人もいるから。

乙子　自衛隊員が買うんですか？

有野　馬鹿ね、女が買うのよ。妻が夫に母が息子に、姉が弟に妹が兄に、彼女が彼氏に。

佳苗　祖母が孫にってのはないのかしら。

有野　いいんじゃない。高齢化時代にはそういうのもありよ。非課税になるかも。

乙子　つまり女子からのお餞別ですね。

有野　ヴァレンタインのチョコじゃないんだから。そんな呑気なもんじゃないわ。あんた、戦争よ。殺し合いよ。弾に当たれば死んじゃうの。鉄砲の弾もね、昔のと比べて殺傷力が格段に違うの。幸いにも急所を外れたから命は助かりました。ピンセットで穿り出しましたってわけにはいかないの。かすったくらいでも、ジ、エンド。機関銃の弾なんて、あんた、こんなに（指で示して）大きいのよ。まともに当たったら、人

間の体なんて形もとどめないわ。粉々に吹き飛んで。そりゃもう。

乙子　……ママ、ミリタリーマニア？

有野　そんなんじゃないわよ。

乙子　鉄砲の弾に詳しいから。

佳苗　生きて帰ってほしいという切実な思いを込めたお守り。真剣なの。

乙子　でも千人分もどうやって？　だって、私をいれてもたった四針でしょ。残りの九百九十六針はどうするんですか？　やっぱ街頭で集めるんですか？　ママは、オカマはいいんですか？

有野　ダメに決まってんだろ！

俊子　オトちゃん、何年？

乙子　え？

俊子　干支。

乙子　えーと……。

由美　寅年でしょ。十八なんだから。

乙子　ああ、そうです。たぶんそうです。私、年賀状とか書かないから。

俊子　私も寅年。由美ちゃんも佳苗さんも。千人針は一人一針って決まりなんだけど、寅年の女に限って歳の数だけオッケーなの。だから私は五十四人分。佳苗さんは七十八人分。由美ちゃんは三十なんだけど、五黄の寅だからさらに倍で六十人分。

乙子　ポイント二倍ですか。由美さん、いいなあ。

由美　五黄の寅の女は気が強いって、あまり評判よくないの。

俊子　ちなみにママも寅年の四十二歳。

乙子　厄年ですね。

有野　オカマに厄年はないの。しいていうなら毎年厄年。

乙子　私は普通の寅？

由美　十八人分。これだけで二百十人分あるでしょ。

乙子　でもまだまだです。そうだ、巣鴨地蔵にくるばあちゃんたちに頼むとか。

有野　これつくるために、老人ホームの職員

とつるんでるの。寅年のバアさんでまだ針が持てるのを見つけてもらって。そうすりゃ千なんてあっという間。

乙子　私、百八十円か。

有野　乙子には結び目の検査係を頼むわ。その分、少しプラスしてあげるから。大事な仕事よ。数を間違えるとまずいの。千に足りなくても多過ぎてもご利益がなくなっちゃうの。

乙子　視力２．０です。勉強しなかったから目はいいです。

有野　一枚あたりはわずかかもしれないけど、数が増えれば馬鹿にならないわよ。チリも積もって何とやら。五千枚も受注すれば専門学校の入学金くらい払えるわよ。

佳苗　オトコちゃん、専門学校行くの？

俊子　鍼灸師だって。

佳苗　鍼の？　いいわね、私、肩も腰もつらいの。実験台になってあげる。

俊子　稽古台でしょ。

乙子　その節はお願いします。

由美　五千枚も注文来るでしょうか。

有野　来るわよ。イラク戦争の時、自衛隊、派遣されたでしょ。あれだって延べで一万人いたんだから。

佳苗　半分でも五千はかたいわね。

有野　あの時は非戦闘地域でもっぱら復興支援だった。よその国の軍隊に日本から土方が来たぜって馬鹿にされてたのよ。今度は戦闘地域でもオッケー。武器だってもちろん何でも可。メイドインジャパンの高性能、高品質の武器をお披露目できるのよ。大体ね、自衛隊に戦闘させたくないのは欧米やロシアの軍需産業、死の商人なのよ。武器市場まで車みたいにメイドインジャパンに席巻されるのが怖いの。自衛隊が活躍して広告塔になるのが嫌なの。

乙子　やっぱマニアだな。

由美　五千枚で売上一億五千万。

佳苗　そんなになるかね。

有野　イラクのときも千人針持ってったのがいたのよ。ニーズは十分あるの。

乙子　絶対真似するのが出てきますよ。

俊子　そう簡単につくれるものじゃないでしょ。千人分揃えるんだから。

乙子　赤い糸縫い込むだけでしょ。インチキして量産するのもいます。中国あたりでつくらせて。

有野　そういう輩もいるだろうから、ちゃんと縫った本人の戸籍抄本と写真を添えるの。寅年だってわかるように。それにいくら工賃が安くても中国じゃダメ。日本の兵隊さん用なんだから純国産じゃなきゃ。

佳苗　つまりあれだね。生産者の写真を載せた有機野菜みたいな。

俊子　産地証明ね。

有野　こういう商売は一度信用を得たところが勝ちなの。ブランドになれるの。

佳苗　でも兵隊さん、バアさんの写真が付いてちゃ興ざめじゃないかしら。

俊子　オトちゃんや由美ちゃんのも混じってるんだから。

由美　私、写真なんてダメです。もうすぐ人妻になるんだし。

有野　目にモザイク入れてあげるわよ。

乙子　私、顔出しオッケーです。水着ぐらいなら応相談。

有野　手当余分に出さないわよ。

俊子　オトちゃん、若い兵隊さんの間で人気者になったりして。

乙子　どうして寅年の女は特別なんですか？

佳苗　「虎は千里を行って千里を帰る」っていうから。

乙子　千里というと……。

由美　約四千キロ。

有野　中東なんて、直線距離にしたってその倍はあるわ。

乙子　遠いんですね。

暗転。

4

同じ場所。
乙子、カウンターを使って千人針の結び目を数えている。青年（幸彦）がそれをじっと見ている。

乙子　（カウンターを見て）九百九十七か……おっかしいなあ。
幸彦　あの……。
乙子　作業中につき邪魔しないで……あった、あった！　こんなとこにあった。くそお、わざとだな。楽寿園のババアめ、私を困らせようとして……九百九十八、九百九十九。オッケーでーす……（幸彦に）で、何？
幸彦　それ……。
乙子　千人針。千人の針。せんにんは空を飛ぶ不老不死のおじいさんではない。
幸彦　ああ。
乙子　知ってるの？
幸彦　出征兵士のお守りだろ。
乙子　えらいな。私は知らなんだ。
幸彦　何やってるの？
乙子　結び目をカウントするのが私めの仕事。
幸彦　なぜ九百九十九なの？
乙子　へ？
幸彦　千なんだろ？　千人針なんだから。
乙子　お客さんのために一針分残すに決まってるじゃないか。千人針を渡す人の分を。
幸彦　そうか。最後の一針か。
乙子　こう見えて私は、一人しかいないが品質管理課の課長様なのだ。えっへん。これ、名刺（渡す）。手書きだが。
幸彦　オツコ……。
乙子　オトコだ。源氏名ではない……私にも頂戴（手を出す）。
幸彦　僕は……。
乙子　名刺、ないの？　一応人間のオスの社会人でしょ？

幸彦　ない。
乙子　ヤクザだって名刺持ってるよ……専業主夫でも年金生活者でもなさそうだし。
幸彦　そんな歳じゃない。
乙子　知ってる？　私たちが老人になる頃には年金なんて影も形もないんだって。
幸彦　いいよ、年金なんて。
乙子　払ってないの？
幸彦　フリーだから。
乙子　フリー？　フリーライター？
幸彦　違う。
乙子　フリーターでしょ。従兄がフリーライターなの。フリーターと間違われて不愉快だって。似たようなもんだと思うが。
幸彦　アルバイターというわけでは……。
乙子　家事手伝い？
幸彦　家事なんて……。
乙子　ニートとは違うの？
幸彦　それは……。
乙子　ニートにしなさい。
幸彦　え？
乙子　フリーターなんて、こう口が開いて馬鹿丸出しじゃないか。それよりニートの方がかっこいい。ニート、ニート……フリーター（口を大きく開けて）。うん、やっぱニートがいい。
幸彦　何でもいいよ……君は？
乙子　私？
幸彦　何者なんだ。
乙子　守秘義務を守れるというなら少しだけ個人情報を開示してもいいぞ。
幸彦　守るよ。
乙子　ネットに流したりしたら殺すよ。
幸彦　ああ。
乙子　御歳十八の寅年の女子高生だ。コスプレではない。
幸彦　嘘だ。高校生は学校にいる時間だろ。
乙子　何も知らんな。偏差値の低い高校では三年になったら就活に専念する。バイトに励んであわよくば正社員に採用してもら

おうとする者もいる。主に居酒屋やファミレスだが。授業なんて出なくても文句は言われない。進学するわけじゃなし。

幸彦　ここでバイトしてるの？

乙子　私の場合、専門学校の費用を捻出しようとたくらんで。

幸彦　専門学校に？

乙子　高卒で就職できるのはブラック企業か福利厚生が期待できない零細企業。それと３Ｋ職場だ。それならまだましで非正規がほとんど。女なんて特に厳しい。風俗だって今日日大卒が大勢押しかけるから、よっぽど可愛くないと難しい。それだったら手に技をつけねばと。

幸彦　何やるの？

乙子　鍼灸師。鍼だ。

幸彦　鍼……どうして？

乙子　それは……。

有野、外から戻ってくる。

有野　ただいま。

乙子　あ、ママ、おかえりなさい。

有野　うん？……こらあっ、乙子！　あんた、神聖な職場に男連れ込んで！　ここは宝塚と一緒の女の園だよ。業者以外男子の入室厳禁。ただしオカマは可。オカマなの？

乙子　連れ込んだんじゃないです。留守番しながら真面目に業務に勤しんでおりましたところ、こやつが宅配便で送られてきて。

有野　宅配便はオカマも運ぶの？

幸彦　オカマじゃないです。

乙子　これです（二つに割れた特大のダルマを指す）。

有野　これ？　まさか……ダルマに？

乙子　そのまさか。

有野　ダルマに入って忍び込むとは……江戸川乱歩も思いつかない。

乙子　宅配のおっちゃんが二人がかりで、うんうん唸りながら運んできました。

有野　あいつら何でも運ぶのね。こりゃちょっと怪しいぞとか思わないのかしら。まあ、キャリーバッグにいれた死体だって運んじゃうんだから無理もないか。

乙子　それも着払いで。

有野　ちゃ、着払い！　あんた、払っちゃったの！　馬鹿、受取り拒否しなさいよ！

乙子　だってダルマだし。

有野　バイト代から引くよ。

乙子　そんなあ。

有野　何者？

乙子　名刺持ってません。専業主夫でも年金生活者でもありません。ニートです。

有野　そのニート様が何のご用？

幸彦　店を訪ねようと思って。

有野　うちはネット販売オンリーなの。直接買いに来られても困るの。クレームも受け付けません。やりとりはメールだけ。

幸彦　住所を頼りに探したんですが、どうしても見つからず。

有野　このビルは消防法違反の迷宮ビルだからね。宅配泣かせといわれてるわ。たどりつくのは結構たいへん。

幸彦　それなら自分が荷物になってやろうと。ダルマの買い取りしてたから。

乙子　冒険家だな。

有野　乙子、教えてやる。漢字の職業でも「家」のつくのはダメ。政治家、投資家、評論家、料理研究家……。

乙子　青年実業家。

有野　ありゃ芸能人狙いの結婚詐欺師だ。

乙子　とまれダルマの底が濡れてるのを見つけた私は、これは絶対怪しいと。

幸彦　途中、トイレに行きたくなって……もう少しで鉈で頭を割られるところでした。何で鉈があるんですか？

有野　ここはまじないグッズの店よ。鉈や鎌ぐらいいくらでもあるわ。

乙子　五徳や五寸釘もあるぞ。

有野　ダルマから生まれたダル……あら、よ

く見たらダルビッシュみたいにいい男ね。
乙子　そうかなあ。
有野　それで何がほしいの？
幸彦　わからないんです。
有野　あてもなく来たの？
幸彦　何か見つかるかと。
乙子　夢想家だな。
有野　で、見つかったの？
幸彦　いえ……。
有野　そう。じゃあ、着払いの料金払ってさっさと帰って。
幸彦　お金ないです。
乙子　地域振興券も？
幸彦　ない。
有野　……じゃあ、体で払って。
乙子　アダルト？
有野　ここでバイトさせてあげる。ここんとこ急に忙しくなって人手がいるの。
乙子　女の園なのに？
有野　男だけどニートだから。ニートはオカマと一緒。不当な差別されてる同士だから特別に。
幸彦　僕、オカマじゃないです。でもバイトはします。
乙子　わーい、後輩ができたぞ。乙子先輩と呼んでくれ。
有野　主に発送なんかの力仕事だけど、モデルもやってもらおうかしら。
乙子　モデル？
有野　ネットの広告に千人針の腹巻きをつけた写真を載せたいの。
乙子　すっぽんぽんで？
有野　お名前は？
幸彦　え？
有野　ニート君の名前。
乙子　こちらは有野のママ。ありのままなのだ。れりごー。
幸彦　幸彦。
乙子　サチヒコ？
有野　幸って、幸薄いの幸？

幸彦　はあ……。

乙子　おお、ラッキー君が飛び込んできたのか。こいつは縁起がいいぞ。

有野、笑う。

暗転。

5

同じ場所。

乙子と俊子、千人針の作業中。

俊子　由美ちゃん、きれいだったわよ。

乙子　花嫁姿、見たかったな。

俊子　招待してもらったのに。

乙子　だってご祝儀出せないから。

俊子　佳苗さんなんて披露宴で食べてばっか。ご祝儀分取り返そうって。

乙子　今日はどうしたんですか？　おなか壊した？

俊子　ママと老人ホームへ千人針の回収に。

乙子　後期高齢者語の通訳ですね。

俊子　ボケ始めたおばあさんとオカマじゃイルミネーションが難しいから。

乙子　コミュニケーションですか。ばあちゃんっ子だって言ってたくせに……ママ、結婚式は？

俊子　出ないわよ。「由美の亭主が私に惚れたら可哀相だから」って。

乙子　何を考えてるやら。

俊子　オトちゃん、由美ちゃんに結婚祝いのプレゼントしたんだって。

乙子　はい。

俊子　何あげたの？

乙子　由美さんのたってのご要望で私の制服をば。

俊子　制服？　いいの？

乙子　擦りきれちゃってもう着なくなったお古です。それとスクール水着。あんなの何に使うんですかね。

俊子　うーん、着るんじゃないの。
乙子　再生しても由美さんにはきついんじゃないかな。特に胸のあたりが。
俊子　いいんじゃないの。着てもすぐ脱ぐんだから。
乙子　コスプレプレイですね。
俊子　知ってんじゃない。処女のくせに。
乙子　今頃新婚旅行かあ。
俊子　まさか、新婚旅行に持っていかないわよね。
乙子　結婚はどうでもいいけど、新婚旅行は行きたいなあ。海外に。
俊子　何言ってんのよ。
乙子　由美さん、旦那さんとたくさんやってくるんだろうな。
俊子　もう、処女のくせに。

幸彦、台車を押して戻ってくる。

幸彦　ああ、重かった。
乙子　おお、ごくろうさん。
俊子　あらら、どなた？
乙子　俊子先輩が休みの間にダルマに入って着払いで配達されました。
俊子　よくわからないけど、オカマなの？
幸彦　オカマじゃないです。
乙子　ニートです。
俊子　目薬？
乙子　それはロート。親がかりでぶらぶらしてる必殺遊び人です。
俊子　へえ、若いのにえらいわねえ。
乙子　幸彦君です。（幸彦に）こちらは俊子先輩だ。子育ての終わった主婦だ。
幸彦　バイトさせてもらってます。
俊子　サチヒコ……サッちゃんね。
乙子　（幸彦に）バナナが好きなの？
俊子　ママが雇うんだからてっきりオカマかと思ったけど違うみたいね。
乙子　千人針のモデルに使うんだって。
俊子　へえ、似合うかも。

乙子　ママ、モデル代百万くれるかな。
俊子　くれるわけないでしょ。
乙子　すっぽんぽんでも？
俊子　腹巻きつけるだけよ。
乙子　目にモザイク入れるだろうし。でも幸彦君、兵隊さんに人気が出たりして。
俊子　ああ、そういう趣味の人、多いかも。
幸彦　……これですか。
俊子　そう。つけてみる？

幸彦、千人針の腹巻きをつける。

乙子　なんか、間が抜けてるな。
幸彦　腹巻きなんてしたことない。
俊子　おなか、冷やさなくていいのよ。小さい時、息子にさせてたわ。ゴムのはいったやつだったけど。チャンピオンベルトだっていったらすごく気にいって。
幸彦　……武運長久。
俊子　その文句、変えた方がいいんじゃないかしら。勝ち負けなんてどうでもいいんだから。無事ならいいんだから。
乙子　では、私めがコピーライターになりましょう。
俊子　ヘリコプター？
乙子　コピーライター。広告の文章、考える人です。うーん……「五体満足」なんてのはどうですか。
俊子　そりゃそうなんだけど。
乙子　「平身低頭」
俊子　何、それ？
乙子　弾が当たらないように。「油断大敵」、「臨機応変」……「四面楚歌」はまずいな。この際、「運否天賦」とか。
俊子　うんぷてんぷ？
乙子　運のいい悪いは天任せ。じたばたしてもはじまらないって意味です。
俊子　なげやりになっちゃダメでしょ。オトちゃん、偏差値低いくせにやたら難しい言葉知ってるのね。

幸彦　……逃げるが勝ち。

俊子　サッちゃん……。

幸彦　逃げるが勝ちです。

乙子　何だよー、せっかく四字熟語で揃えてるのにー。

俊子　逃げるわけにはいかないでしょ。これ、人に見せるものじゃないけど。それじゃ、危なくなったら逃亡しますって宣言してるようなもんでしょ。そりゃまずいわよ、仲間に見られたら。

幸彦　運を天に任せるより、逃げた方がいいと思います。

乙子　砂漠の真ん中では、逃げるところも隠れるところもないのだ。

幸彦　だから、そうなる前に逃げる。戦地に派遣されてからじゃ遅い。もっと前に逃げるんです。

俊子　でも自衛隊の人たちは、戦地に派遣されることがあるかもしれないって前提で自衛隊やってるんでしょ。いわば覚悟の上なんだから。

幸彦　誰も覚悟なんてしてない。

俊子　でもあれ、一応軍隊なんだから。

幸彦　覚悟なんてしてない軍隊です。弾に当たるかもしれないところへ出かける覚悟なんてない軍隊です。

俊子　そうなの……でも決まっちゃったんだから。誰か行かなきゃならないんだから。

乙子　つまりそれは便所当番だな。

俊子　何よ、それ？

乙子　学校の便所掃除の当番なのだ。当たらないようにみんな必死になるのだ。賄賂もあるし、仮病も使う。

俊子　女の子はお便所掃除するときれいになれるって歌、あったでしょ。トイレの神様がどうしたこうしたとかいう。

乙子　嘘っくさい歌だ。俊子先輩は女子校の便所の汚さを知らないから。汚し方がもう半端ではない。煙草の吸殻やタンポンが散乱し、便座にまでばっちいのがこびりつい

てる。まったく尻の穴の位置がずれてるんじゃないのか。何食ったかと思うくらいにおいも強烈だ。五分もいれば眩暈がして卒倒しそうになる。鼻が曲がって戻らなくなったのもいる。地獄だ。戦場だ。ＰＴＳＤ、心的外傷後ストレス障害になる。

俊子　大げさ。

乙子　掃除当番に当たらないためには手段を選ばない。私ら、それを徴兵逃れと呼んでいた。

有野、荷物を持って戻ってくる。

有野　ニート君、心配なんでしょ。

幸彦　……。

乙子　おかえりなさい。

俊子　佳苗さん、一緒じゃ？

有野　老人ホームの演芸会、観ていくっていうから置いてきたわ……幸彦はね、自衛隊が心配なんじゃないの。徴兵が心配なのよ。自分たちのことが心配なの。

乙子　徴兵なんてあるんですか？

有野　決まってるじゃない。海外派兵の次は徴兵よ。

俊子　自衛隊じゃ足りないんですか？

有野　足りなくなるの。だから備えるの。

乙子　韓国にはあるけど。

有野　そういう方向に間違いなく進むの。マイナンバー制、導入されたでしょ。あれ、何のためだと思うの。国民へのサービスのためとほんとに思ってるの。あれはね、脱税を防ぐため、それから徴兵のためなのよ。兵隊になれる人間がどこにどのくらいいるか把握するためのもの。

俊子　この少子化の時代に。

有野　若者が少ないのにっていうんでしょ。そう、今はどこも人手不足。徴兵なんて無理だと思うでしょ。いろんな産業が立ちゆかなくなっちゃうもの。でもね。

幸彦　ニートがいる。

有野　健康なのに働きも学びもしない若いのが六十万もいるの。

乙子　なるほど。それだけいればさしあたり十分だ。

俊子　ニートの子たちを徴兵するわけ？　そしたらみんな、あわてて仕事、見つけようとするんじゃない？

有野　それはそれでいいわけよ。ニート対策になってるんだから（笑）。

幸彦　それならば働こうとはなりません。なれないのがニートなんです。

乙子　居直ってるな。

有野　政府が引き籠りやニートに真剣に取り組んでこなかったのはそういうわけ。

乙子　でもママ、何もやる気がない人たちが兵隊さんとして使いものになるだろうか。

有野　そんなもの訓練次第でどうにでもなるわ。要はいかに徴兵に応じさせるか。乙子、イスラム国に参加する連中はどんなやつら？　働いてないでしょ。ニートみたいなやつらよ。働きたくても口がないというのもあるけど。彼らはイスラム国の勧誘、つまり徴兵に応じてるわけでしょ。

幸彦　ネットで洗脳されてる。

乙子　じゃあ、日本のニートもネットで洗脳されるってこと？

俊子　誰に？

有野　政府は表立って徴兵を打ち出せない。猛反発が起こることは目に見えてるから。でも志願制を建前にすれば不可能じゃない。そのためにネットを通して徐々に洗脳を図る。うまいことにニートという連中はネットとの親和性が高いとくる。

乙子　オタクも多いからな。

幸彦　もう始まってる。

俊子　始まってるって、洗脳が？

有野　ネトウヨなんてやつらが急に増えてきたのがなによりの証拠よ。

俊子　サッちゃん、洗脳、大丈夫？

乙子　洗脳は気がつかないうちに進行するの

だ。気がついたときは手遅れだ。癌だ。

幸彦　ニートは孤立してます。ただネット上では連帯感のようなものがかすかに存在するんです。そこへ仲間を装って、リクルーターのようなやつらが近づいてくる。

俊子　スクーターが何だって？

乙子　リクルーター。人員の募集や補充をする人。要するにスカウトです。私もされそうになりました。アダルトに。

俊子　兵隊さんが足りなくなるなら自衛隊員をたくさん募集すればいいんじゃないの。今、人気あるんでしょ。

乙子　ほんとに戦争しなきゃならないってことになったら、応募減るんじゃないですか。知ってる子に自衛隊めざそうってのもいたけど、ただの対戦ゲームオタクの勘違い野郎です。

有野　自衛隊は張子の虎じゃなきゃいけなかったの。ずーっと……。

乙子　六十万人のニートのうち十万が兵隊さんになって、それが海外派遣されたとすると、十万人分の千人針が必要だ。こりゃたいへんだな。忙しくなるぞ。でも、えーと（計算している）……えっ、三十億！　て、ことは、私の手当て百八十円かける十万で……せ、千八百万！

俊子　オトちゃん、そういうの、とらぬ田螺の川算用っていうの。

乙子　タニシじゃないです。タヌキです。

俊子　だって川にいるのは田螺でしょ。

乙子　その川じゃないし……。

幸彦（有野に）なぜ、千人針なんですか？

有野　うん？

幸彦　なぜ千人針なのかなって。

有野　それはね、私のばあちゃんの……。

乙子　亀乃さんという。亀戸天神の亀に乃木大将の乃だ。

有野　ばあちゃんの恋人に赤紙がきたの。

乙子　あかがみ？

俊子　召集令状。赤い紙だったの。

有野　昭和十九年、ばあちゃんが十八の時。三つ年上の恋人に赤紙がきた。三日以内に連隊に出頭して検査を受けねばならない。合格したらすぐにも出征。ばあちゃんは必死で千人針を集めた。でも間に合わなかった。ばあちゃんは千人針を渡すことができなかったの。恋人は輸送船で南の島へ送られ、その部隊は玉砕。遺品の一つすら還らず、紙きれの入った箱が届いた……ここよ（ボージョボー人形を指し）。

乙子　え？

有野　サイパン。ここで死んだの。

幸彦　……。

有野　ばあちゃんは、恋人が生還できなかったのは、千人針を用意できなかったせいだとずっと自分を責めてた。戦争が終わって七十年、ずっと悔やみ続けてきた。死ぬときまで……。

乙子　亀乃ばあちゃんの恋人さん、徴兵逃れすればよかったのに。

有野　ばあちゃんも言ってた。無駄死にするくらいなら、逃げてほしかったって。オカマの私が家族からシカトされたときにも、ばあちゃんだけは味方だった。「いいんだよ、オカマなら兵隊にとられずにすむもの。戦争へ行って死なずにすむもの」って。

乙子　オカマは兵役免除になるの？

俊子　さあ。オカマばかりの部隊をつくればいいんじゃないの。

乙子　絆の強い精鋭部隊になりそうだな。しんがりを任せそうだ。

俊子　……サッちゃんのいうとおり、逃げるが勝ちなのね。

有野　いいのよ。徴兵をおびえるのはあたりまえのことなの。おびえない方が馬鹿。あの戦争、日本の若者がみんなすすんで兵隊になり、祖国のためにと勇ましく戦地に向かったと思うの？　みんな嫌だったの。華となんか散りたくなかったの。日本の軍隊のモチベーションなんて、やたら低かった

の。徴兵逃れなんてすごく多かったの。でも軍部は必死でそれを隠した。日本が負けたのはね、武器や石油がなかったからだけじゃない。兵士のやる気がなかったの。気持ちの問題だったの。

俊子　サッちゃん……大丈夫。オバさんたちが守ってあげるから。

幸彦　え？

俊子　いざとなったら守ってあげる。

幸彦　……。

俊子　オバさんの息子、歳、サッちゃんと同じくらいなの。大工さんしてるの。まだ半人前だけど……どうしようもない不良だった。何度も警察へ引きとりにいったわ。一緒に死んじゃおうかって思ったこともある。でも今はちゃんと仕事して、母の日には花なんか買ってくるの。彼女もいて、茶髪だけどとってもいい娘……そんな息子が兵隊にとられるなんてこと、オバさんは絶対許さない。絶対に認めない。日本がどっかの国から攻められてというならまだしも、よその国まで出向くなんてダメ。絶対にダメ。昔の母親は大事な息子を奪われてもただじっと耐えて、千人針なんかつくってた。でもね、オバさんたちは違うよ。オバさんたちは、命かけて息子を守る。

幸彦　……。

乙子　俊子先輩……。

暗転。

6

同じ場所。

乙子と佳苗、由美が作業中。

佳苗　それからお醤油。

乙子　しょうゆ？

佳苗　検査の時お醤油、飲むの。

乙子　それだけ？

佳苗　心臓がバクバクいうんだって。お医者さんが、「こりゃ心臓病だ、使いものにならん」ってことで兵役免除になるわけ。

由美　お醤油ってとりすぎは体によくないんですね。うちは減塩のだけど。

佳苗　よっぽどたくさん飲むんだろうね。でもタイミングよく、お医者さんの前に行った時にバクバクいわないとダメなのよ。早すぎても遅すぎても。

乙子　うーん、インチキも難しいんだな。

佳苗　あとはね、やせるの。うーんと。

由美　ダイエットですか。

佳苗　下剤使ったりしてガリガリに。それから、人差し指を切り落すとか。

由美　何ですかそれ！

佳苗　鉄砲の引き金がひけないから。

乙子　見え見えだな。

佳苗　眼の病気を偽るのも。針で突いた人もいたそうよ。

乙子　うー、痛そうだ。見えなくなったらどうするんだ。

由美　そこまでして兵隊になりたくなかったんですね。

佳苗　死ぬのが怖いってだけじゃないの。自分が兵隊にとられたら、歳老いた親や幼い妹弟の面倒をみるものがいない。生きていけない……切実な人が多かったのよ。

由美　佳苗さん、ご兄弟は？

佳苗　私は末っ子で兄が三人。二番目の兄が満州で……丙種合格、輜重兵だった。

乙子　しちょうへー？

佳苗　輸送専門の兵隊さん。ほんとは大事な役目なのに馬鹿にされてた。一人前の兵隊じゃないみたいにいわれて。「**輜重輸卒が兵隊ならば蝶もトンボも鳥のうち**」（歌う）、なんて歌があって……その頃まだ六つか七つぐらいだったけど、近所の悪ガキがからかうもんだから、棒持って泣きながら追っかけた。

由美　兄さんのこと、好きだったんですね。

佳苗　可愛がってくれた。やさしくて頭のいい人だった。そういう人ばかり死んだの。頑丈じゃなかったからね。

乙子　千人針は？

佳苗　持っていかなかったんじゃないかな。鉄砲撃たない兵隊だからね。

乙子　弾が飛んでくるとこへは行かないの？

佳苗　そうはいかないわよ。でも兄さんは病死……オトコちゃん、あの戦争で二百万を超える兵隊さんが死んだけど、半分以上は病死。というか、ほとんど飢えなの。飢死。食べるものが無くなって、飢えて、弱って死んだの。

乙子　えーっ……知らなんだ。

佳苗　鉄砲の弾や爆弾で死んだ人よりずっと多いの。

乙子　ひどいなあ。

佳苗　ひどいよね。

乙子　千人針は食べられないな。

佳苗　そうだね（笑）。

乙子　お腹すくのはつらいよ。世の中で一番つらいことだって。アンパンマンの先生も言ってた。

佳苗　……この間、ホームへママと千人針の回収にいったでしょ。そのときね、入居者に怒鳴られたの。

乙子　楽寿園のババア？

佳苗　違うわ……「出征兵士の家族の心につけこむ商売しやがって。千人針を何だと思ってる。そんなに金儲けがしたいのか！」って。

乙子　寅年でないんでバイトの口がかからなかったんだ。それで僻んで。

佳苗　おジイさん。寝たきりの。

乙子　あら。

佳苗　歳からして戦地に行ってたかも。

由美　ママは何か言い返したんですか？

佳苗　何も。黙ってた。

乙子　喧嘩早いのに。

由美　……戦争中のいろんなこと知ってる人

が段々少なくなってますね。
佳苗　知ってる人がちゃんと伝えないから、馬鹿が馬鹿なことを繰り返すのよ。
乙子　ママはただ、亀乃ばあちゃんの……。
由美　オトちゃん、みんなわかってる。
佳苗（歌い出す）**焼いた魚が泳ぎ出し、絵に描くダルマが手足出し。**
乙子　なんだ？
佳苗　**電信柱に花が咲く**（笑）。さっきの歌の続きよ。輜重輸卒の。
乙子　焼いた魚が泳ぎ出し？
佳苗　絵に描くダルマが手足出し。
乙子　電信柱に……。
佳苗　花が咲く。
由美　電信柱に花が咲いたらいいわね（笑）。
乙子　幸彦君の入ってたダルマを鉈でぶち割ったら手足が出てきた。
佳苗　……あの子、ちょっと変わってるね。
乙子　ニートですから。
由美「僕、ほんとはニートじゃないです。フリーです」って言ってたわよ。オトちゃんが無理矢理ニートにしたんでしょ。
乙子　だって働いていないし、学校も行ってないし。
由美　でも頭いいじゃない。
佳苗　……あの子、ちょっと変わってるね。学校へ行ったことないんじゃない？
由美　不登校ですか？
佳苗　そういうんじゃなくて、始めっから行ってないみたいな。小学校も中学校も。だって給食って言葉知らなかったのよ。
由美　学校給食？
佳苗　給食って何ですかって。
乙子　欠食児童か？
由美　引き籠りってことですか？
佳苗　引き籠りというか……。
乙子　歯磨きフェチだ。お昼の後もおやつの後もすぐ磨く。時間かけて。強迫神経症だ。
由美　いい子ですよ。イケメンさんだし。
乙子　おっ、よろめき妻の不倫願望だな。新

婚だっていうのに。さては旦那さん、あまりしてくれないな。

由美　何言ってんの、してくれるわよ！　昨日だって二回……。

乙子　うう、何て赤裸々な。処女には刺激が強すぎる。

佳苗　気になるわね。

乙子　してくれるそうです。

佳苗　あの子のこと。

乙子　すっかり人気者だな。年増殺しだ。

由美　ネットの広告の写真、モザイク入れなかったんでしょ。

乙子　顔出しオッケーなのだ。

佳苗　私の顔には墨を入れたのに。

由美　幸彦君、ほんとに徴兵を心配してるのかしら。

乙子　ママと徴兵逃れのまじないグッズを開発しておる。さしあたり韓国で売り出そうと図っておる。

由美　私、実は逆で、幸彦君、ほんとは徴兵されたがってるんじゃないかって。

佳苗　徴兵されたい？

由美　何となくだけど。でも撮影の時……。

乙子　腹巻きの？

由美　幸彦君、興奮してるみたいな。すごく誇らしげで。

乙子　逃げるが勝ちって言ってたのに……。

暗転。

7

同じ場所。

乙子は千人針の作業中。幸彦は割れたダルマをつなぎあわせている。

乙子　それ、再生するの？

幸彦　捨てるのもったいないだろ。

乙子　おしっこくさいぞ。

幸彦　よく干したから平気だよ。

乙子　……ずっとここに泊ってるの？
幸彦　うん。
乙子　お家、大丈夫？
幸彦　誰もいないし。
乙子　一人なの？
幸彦　ああ。
乙子　いつから？
幸彦　ずっと前から。
乙子　ずっと前か……。
幸彦　一度家に戻ったろ。いろいろ取りに。着替えとか歯ブラシとか。そしたらたどりつけなくなって。ほんとここ、迷宮だ。
乙子　情けないやつめ。私なんて全然迷わないぞ。眼を瞑っても来れる。
幸彦　道、覚えるの苦手なんだ。
乙子　またダルマに入ってくれればいい。
幸彦　そうか（笑）。
乙子　家に閉じこもってたせいだ。
幸彦　そんなことないよ。ちゃんと外へ出てた。この間まで大学に通ってたし。
乙子　大学？　大学生だったの？
幸彦　大学生じゃないけど大学に通って講義聴いてた。大学って自由に入れるし、授業にも出られる。学生証なんかなくても平気。質問したら先生は答えてくれるし。教科書も買えるし。僕、そこの学生より真面目に通ってた。単位がとれないってだけ。勉強がしたいなら偽学生になればいいんだよ。
乙子　何を学んだんだ？
幸彦　国文学。万葉集とか。
乙子　友だち、できた？
幸彦　ノート貸してやったこともある。学食で一緒に食事したり。
乙子　さてはピッチピチの女子大生とつきあってたな。
幸彦　バレないようにほどほどに。
乙子　でも学歴にはならんな。
幸彦　いいんだよ。勉強は楽しい。僕、お金ないっていったけど、ほんとはあるんだ。そんなたいした額じゃないけど。何とかや

っていける。母さんが遺してくれた。といってもそれは、じいちゃんが遺してくれたんだけど。

乙子　幸彦君、父さんは？

幸彦　いない。

乙子　死んじゃったの？

幸彦　母さんは僕を一人で生んだ。

乙子　シングルマザーか。

幸彦　……気狂い。

乙子　え？

幸彦　徴兵のこと調べたんだ。ずっと気狂いのふりして逃れた人がいるんだって。

乙子　えー、ばれちゃうんじゃない？

幸彦　度胸があって演技力もあったんだね。ばれたらひどいめにあうもの。その人、服の下に芸者さんから借りた下着つけて徴兵検査にのぞんだんだって。

乙子　おお、勇士だな。

幸彦　服を脱いだら真っ赤な下着が現れたもんだから、周りはもうびっくり。取り押さえられ、精神障害者として兵役免除になり、たたき出された。

乙子　うまくいったんだ。

幸彦　でも憲兵に詐病を疑われていたから、家に帰っても隙を見せるわけにはいかない。ずっと緊張状態を維持するのはたいへんだったらしい。それにはまず身内、家族から騙さなきゃ。そこで何と、奥さんの前でウンチを食べたんだって。

乙子　うわあっ、ぺっぺっ。

幸彦　さすがに信じるだろ。

乙子　戦争が終わるまで気狂いのふりをしてたの？

幸彦　その人が検査を受けたのは大正時代の終り頃だったから、二十数年。

乙子　すごい根性だなあ……幸彦君、真似できる？

幸彦　僕は……。

有野、事務室から出てくる。

有野　ネット見てたけど、乙子のいうとおりバッチもんが続々出てきたわ。
乙子　でしょ。
有野　敵は戸籍抄本を偽造してるの。
乙子　当局にチクリましょう。
有野　とっくにチクったわよ。戸籍を偽造するなんて罪が重いのよ。
乙子　無期懲役に処す。
有野　死刑よ。
幸彦　死刑なんですか？
有野　冗談よ。でもそれだけうまみがあるってことが知られちゃったわけだし。ブランド守るのもたいへんだわ。
乙子　自衛隊御用達になればいい。
有野　まじないを公認するわけにゃいかんでしょ。黙認してくれるだけで結構。
乙子　競合を勝ち抜くには何がしかのインセンティブが必要ですな。
有野　インセンティブって……あんたの学校、ほんとに偏差値低いの？
幸彦　コストがかかっちゃうだろ。
乙子　でも差別化をしないと。
有野　購入希望者は自衛隊関係だけじゃないの。
乙子　在日米軍とか。
有野　まったく戦争と関係ないような人たちからもあるわ。子供を銃社会の米国へ留学させる母親とか、紛争地へ行かされる企業戦士の妻なんてのはまだわかるけど、何に使うのかわからない申し込みが増えてる。それも女ばかりじゃないの。
乙子　幸彦君の写真が載ってるから、その筋の人たちじゃないの？　それとも私のファンかな。
有野　それはない。
乙子　言い切らなくても。
幸彦　不安なんでしょう。何となく。
有野　まあ、いいけどね……楽寿園のババア、工賃の値上げを要求してきやがった。

乙子　それよりママ、私は心配していることがある。

有野　何よ。

乙子　大手の本格参入。

有野　大手？　どこが？

乙子　例えばＡＫＢ４８。

有野　ＡＫ……カラシニコフ？

乙子　ＡＫＢ。アキモト君のとこでおっ始めるのではないかと懸念しておる。

有野　ああＡＫＢって、一山いくらで普通の女の子売り出してる、あれ？

乙子　あそこにも寅年の子は大勢いる。ぶきっちょでも玉止めくらいできるだろう。各地に支部があるから千人分くらいあっという間。敵は若い子ばかりだ。うちはほとんどバアちゃんだ。兵隊さんがどっちを欲しがるかといったら、火を見るより明らか。残念ながら勝ち目はない。

幸彦　ＡＫＢが千人針なんてやるか？

乙子　千人針自体で儲けようとは思わない。海外で戦う兵隊さんへの応援メッセージソングなんてのをつくって彼女たちに歌わせる。そのＣＤで儲ける。握手会なんてもうしない。ファンは白い布を持参し、列に並び、赤い糸で一針縫ってもらうのだ。もちろんＣＤに付いてる券がなければ並べない。もしＡＫＢメンバー特製の千人針を完成しようとしたら、一体いくら投資しなければならないか。

幸彦　その千人針をネットで売るんだ。

乙子　おそろしい値段がつくぞ。

有野　そう……。

乙子　そのぐらいのことやりかねない。

幸彦　海外派兵やその先の徴兵に対する抵抗感を薄める狙いがあるかも。

有野　政府とつるんでね。

乙子　本物の兵隊さんの奥さんや恋人たちは、そんな軽薄な千人針は嫌だろう。鼻の下を長くされても困るし。でも今の需要の多くは確実に奪われてしまう。

幸彦　新しい切り口を提案すればいい。僕たち先行企業なんだから。

乙子　甘い。敵にはデザイナーでもコピーライターでも商品開発に関する有能なスタッフが揃ってる。かなうものではない。

有野（あきれて）いいわよ、そうなったらそうなったで。執着しないわよ。でもあんたたちって、若いくせに相当変よ（笑）。

乙子　相当変なママに言われても。

暗転。

8

同じ場所。

由美、乙子。幸彦。

乙子　俊子先輩……。

由美　やっぱ癌みたい。

乙子　癌か……。

由美　すい臓。

幸彦　すい臓は厳しいです。

乙子　厳しいの？

幸彦　母がそれで。

由美　幸彦君、お母さん失くしてるんだ。

幸彦　五年も前です……何か手伝うことないですか。僕、俊子さんにはいろいろ心配してもらって。でも息子さんがいるから余計なことしない方がいいのかな。

由美　……いないわ。

乙子　大工さんの息子だよ。

由美　いないの。

乙子　昔は不良だったけど、今は真面目で母の日に花を買ってくる。

由美　いないの。

乙子　警察によく引き取りに。

由美　いないの……息子さん、ほんとに悪くって、俊子さん、苦労されたみたい。でもね、もういないの。暴走族に入ってて、事故起こして……大工さんは、亡くなられた

ご主人の仕事。

乙子　茶髪の彼女も……。

由美　俊子さんの……夢。

乙子　あ……うう（泣き出す）。

幸彦　僕、どうすれば……見舞いに行っちゃまずいですか。

由美　行かない方がいいかも。難しい病気だって知られたくないだろうし、息子さんのことも知られたくないと思う。

乙子（泣きながら）俊子先輩、きっとさびしいよ。ひとりでベッドにいて。

由美　私と佳苗さんが交代で通うから。

幸彦　何かできることないですか。

由美　俊子さんの分、バイト頑張って。気にしてたから。

乙子　手術、するの？

由美　たぶん。

有野、事務室から飛び出して。

有野　死んだわよ！

乙子　ええっ！

幸彦　俊子さんが？

有野　自衛隊よ。シリアに展開していた自衛隊員一名死亡。事故じゃない。戦死。今、ニュース速報で。二十一歳。

幸彦　二十一……。

乙子（幸彦に）同い年だな。干支は？

幸彦　亥年。イノシシだ。

有野　戦後初の戦死者。

由美　撃たれたんですか。

有野　狙撃らしい。

由美　まだ若いのに……。

乙子　シシが鉄砲で撃たれた。

由美（たしなめて）オトちゃん。

乙子　……千人針、つけてたのかな。

有野　政府も大あわてだ。戦地に派遣すれば戦死者が出ることなんてあたりまえなのに、あわてふためいてやがる。派兵にろくに抵抗しなかったマスコミもここへきて

批判し出した。日本の兵士だけは殺されることはないと思ってたとしたら、能天気にもほどがある。

乙子　うちの千人針だったり……。

由美　これからもっと増えるのかしら。

幸彦　おそらく。

有野　……もう、やめようか。

乙子　え？

有野　千人針。

幸彦　やめるんですか？

有野　一人でも撃たれて死んだら、やめようかなって……。

乙子　その人、千人針つけてなかったんです。つけてても、うちのじゃない。きっとバッチもんです。

有野　ばあちゃんの恋人、千人針が間にあったとしても帰って来れなかった。だって玉砕なんだから。その島にはいまだに何千人もの遺骨が残ってる。ばあちゃんの恋人も。たくさんの兵士たちの骨には、きっと布の切れ端がこびりついてるんだろうね。千人針の切れ端が……。

幸彦　先週の休み、楽寿園に行ってきました。

乙子　何しに？

幸彦　佳苗さんが話してた、寝たきりのおじいさんに会いに。

由美　ママたちを怒鳴りつけたっていう？

幸彦　もしかして、千人針をつけて戦地に行ったんじゃないかと思って。

由美　話を聞きに？

幸彦　はい。

由美　断られなかった？

幸彦　ママのばあちゃんの話をしたら……

（有野に）すみません、勝手なこと。

有野　いいわよ。

幸彦　その方、村上さんといいます。村上さんは奥さんの用意してくれた千人針をつけて中国へ行ったそうです。仲間にもつけていた人は大勢いて、でも虱がわいてたいへんだったそうです。結び目が虱には格好

の巣になるみたいで。あまり洗えないし。中にはたまらず、つけるのをやめた人もいたそうです。

乙子　そのじいちゃん、生還したんだろ。ご利益あったんだ。なのに文句つけるの？

幸彦　千人針をつけていても、大勢撃たれて亡くなられたそうです。「こんなもの役に立たん」といって、捨ててしまった人もいたそうです。

由美　だって、あれはみんなの祈りが込められて……。

幸彦　村上さんの同郷の戦友も撃たれました。腹を撃たれ、千人針も血まみれになりました。戦友は千人針を握りしめて言ったそうです。「こいつがあるからよかった。一人で死ぬんじゃたまらんからなあ」って……村上さんも大怪我をしましたが、帰国することができました。でも、待っていてくれるはずの奥さんは空襲で。

由美　……心の支えなんです。きっと。

幸彦　ええ。

由美　心の支え。

乙子　……千人針つくろう。

由美　え？

乙子　特別製の千人針。

幸彦　特別のって？

乙子　俊子先輩の千人針だ。

由美　オトちゃん。

乙子　俊子先輩は病院で癌と戦っている。戦地にいるんだ……武運長久。由美さんと佳苗さんと私で……ううん、幸彦君にもママにも手伝ってもらって、でっかい、うんとでっかい虎の刺繍をする。手術室に行くとき、そいつをお守りにして……。

有野　オトコ……。

乙子　絶対、絶対に生還させるんだ。

暗転。

9

同じ場所。
佳苗と幸彦、作業中。有野も俊子のための千人針の刺繍に取り組んでいるが、苦戦している。
『手術必勝』と墨で書かれたダルマが飾ってある。

佳苗（ダルマを見て）オトコちゃん、字、うまくないね。
幸彦　どうしても自分で書くって。
有野（刺繍をしながら）乙子、必勝の必が書けないの。やたら難しいこと知ってるくせに。あの子、ほんと馬鹿なのか利口なのかわからないわ。
佳苗　尿酸値、低いんでしょ。
幸彦　偏差値です。彼女の学校、偏差値７０以上ですよ。
有野　めちゃめちゃ高いんじゃない！
佳苗　あらそうなの？
幸彦　中高一貫の名門女子校です。超有名な。
有野　嘘でしょ？
幸彦　でも制服、そこのだし……。
有野　詳しいわね。あんたそういう趣味、あったの？
幸彦　そんなんじゃないです。
有野　ネットオークションで手に入れたんじゃないの。
幸彦　由美さんのもらったのも同じだって。
有野　あんたもほしいんでしょ。
佳苗　授業にも出ないで、こんなとこでアルバイトしてていいの？
有野　学校、クビになるんじゃない。
佳苗　オトコちゃん、専門学校、行くんでしょ。鍼の。
幸彦　それはほんとみたいです。
有野　まあ、どこにも変わり者はいるから。
佳苗　今日は学校？
幸彦　由美さんと俊子さんのお見舞いに。
佳苗　ああ、病院行くって言ってたわね。

有野（針を動かしながら）佳苗さん、由美の方は大丈夫なの。

佳苗　大丈夫って？

有野　夫婦仲。

佳苗　相性いいみたいですよ。夜の方も。あとは子供ね。

有野　でも由美、子供できないんで出されたんでしょ。

佳苗　できないのは女ばかりに原因があるわけじゃないんです。男の方にだって……由美ちゃん、何度検査しても問題なかったんです。なのに、前のご主人は検査嫌がって。前のご主人、大人になってからおたふくやってるんですよ。

有野　それが愛人に子供ができて。

佳苗　孫もつくれない嫁じゃしょうがないって、鬼のような姑に由美ちゃん、さんざんいびられて追い出されたんだから。それで慰謝料とか何もないんですよ。

有野　そして愛人が後釜に。

佳苗　ひどい話。

幸彦　……ほんとにそのご主人の子供なんでしょうか。

佳苗　どういうこと？

有野　実はその愛人には他にも男がいて、ほんとはその男の子なんだけど、そっちより由美の亭主の方が金があるから。

幸彦　由美さんのご主人の子ということにして。

佳苗　騙されてるってこと？

幸彦　可能性というだけですが。

有野　昔は血液型がどうのこうのっていったけど、今はＤＮＡ調べれば一発でしょ。いつか修羅場がやってくるわよ。

幸彦　由美さん、薄情な旦那さんと別れてよかったじゃないですか。

有野　だから早くつくってさ、その姑に言ってやればいいのよ。私が原因じゃありませんでした。ところで、そっちはほんとに大丈夫ですかって。

佳苗　頑張ってるみたいだけど、仲がよすぎるとできないってことも。
幸彦　そうなんですか？　逆のような気がするけど。
有野　やりすぎはいけないのよ。薄まっちゃうんじゃないの。（佳苗に）ねえ？
佳苗　知りませんよ。
幸彦　うちの店には子宝に恵まれるまじないグッズはないんですか？
佳苗　そういえば、これというのがないわね。新しくつくればいいのに。
幸彦　千人針の反対のおまじないですね。当りますようにってことだから。
有野　当たるって、あんた（笑）。
佳苗　やっぱ腹巻き？　女性用の。
有野　戦意喪失しそう。

女１が入ってくる。俊子と年恰好も雰囲気もそっくり。

女１　ごめんください。
佳苗　はーい。
女１　こちら、まじないグッズのまん……。
幸彦　『萬多璃守』ですが。
女１　ここでいいんですね。お店の方？
幸彦　バイトですが。お客さんですか？
女１　ええ……。
幸彦　すみません。ここ、ネット販売オンリーなんです。直接買いに来られてもお売りできないことになってます。
女１　買いに来たのでは。
有野　じゃあ、クレーム？
女１　クレームというか……。
有野　クレームはメールでしか受け付けないことになってるの。
女１　こちらの千人針のことで……三万円の。消費税、送料別の。
幸彦　クーリングオフ……。
女１　いえ、返品とかじゃなくて。
幸彦　何かお気に召さないところが。

女１　あなた……。

幸彦　は？

女１　広告の写真の人ね、モデルの。

幸彦　はあ……。

佳苗　（小声で有野に）幸彦君目当てよ。

有野　モザイク入れときゃよかった。

女１　プロのモデルさんかと思ったら、お店の方なのね。

幸彦　あの……。

女１　（棚を見て）ダルマがたくさん……これ。

幸彦　再生するんです。

女１　そう、エコなのね。（佳苗に）あなた。

佳苗　はい？

女１　あなた、保証書に載っていた方じゃないですか？　お顔にモザイクが入ってたけれど。寅年の七十八歳の。確かそうですよね？

佳苗　ええ、まあ……。

女１　七十八針分も担当して下さったわけですね。

佳苗　本当に寅年ですよ。昭和十三年生れ。戸籍、嘘じゃありませんから。もしお疑いなら。

女１　疑ってなんかいません。

有野、ポケットから財布を出し、札を抜く。一万円札を三枚。

有野　はい、これ。（女１に押し付ける）三万あるわ。これでいいんでしょ。

女１　私は別に……。

有野　わざわざお越しいただきましてありがとうございました。何？　消費税と送料もほしいの？

女１　私は……。

有野　こういうのが必ずいるの。前に『素敵な結婚相手が見つかるミラクルパワーストーン』っての売ったのよ。結構売れたわ。そしたら難癖つけてきたのがいたの。素敵な結婚相手が見つからず、精神的ダメージ

を受けたから慰謝料寄こせって。馬鹿じゃないの。まじないグッズよ。交通安全のお札を車につるしてたのに事故にあったら神社に損害賠償させるの？　合格祈願をして試験に落ちたら訴えるの？　その女はね、こっちが精神的ダメージを受けそうな御面相なの。まじないグッズ買うより整形でもした方が……。

女１　私は……。

有野　あなたも損害賠償？

女１　そうですね。

有野　ほら。

女１　そういうことができたらいいですね。

幸彦　千人針が役にたたなかった？

女１　……。

幸彦　まさか……。

女１　息子、撃たれて死にました。

佳苗　自衛隊の……。

女１　私が持たせました。息子はそんなもの嫌だと言ってましたが、母親が安心するなら思ったのでしょう。

佳苗　……。

女１　ちゃんと着けていました。でも撃たれちゃって……。

幸彦　二十一歳の……。

女１　あなたと同じくらいね。

幸彦　同じです。亥年です。

女１　先週納骨したんです。あんな遠くからでもちゃんと運んできてくれて。昔だったら髪の毛ぐらいしか戻らないんでしょ。

佳苗　何も戻らないことの方が。

女１　冷凍して、そのままで戻してくれる。そのままで……。

佳苗　……。

女１　千人針も還ってきました。

有野　どうしたいの？

女１　何も。

有野　……。

女１　でも見てるうちに、これ、どんなところで、どんな人たちがつくったのかなって。

有野　だから写真がついてるじゃない。

女１　可愛いお嬢さん以外は目隠しがしてあったし。それから……。

幸彦　伝えたかった。

女１　葉書もついてたし。本製品に関するご意見、ご感想をお寄せ下さいって。

佳苗（有野に）そんなのついてたの？

有野　乙子がつけろっていうから……。

女１　隊や政府に言いたい事があってもいえない。誰にもいえない。だから……八つ当たりみたいなもんですね。ごめんなさい。お国のためになんていうけれど、よその国の戦争でしょ。お国を守ったわけじゃない。慰めてくれる人たちも、陰では自衛隊なんかにさせなけりゃよかったのよって。徴兵されたわけでもないのにって。

幸彦　息子さんは派遣を拒否できなかったんですか？

女１　しなかったの。誰もしないわ。だって、みんな死ぬことなんて、撃たれて殺されることなんて考えないもの。訓練中の事故以外死者を出さなかった軍隊。戦死者のいなかった軍隊ですもの。でも……。

幸彦　でも？

女１　息子は現地へ行ってはじめてわかったの。殺されるかもしれないって。でもその時には遅かった。砂漠の真ん中に逃げるところも隠れるところもない。日々、怯えていたんだと思う。それが哀れで……。

佳苗　一人息子？

女１　ほんとは大工さんになりたかったんです。父親が大工だったから。中学、高校と不良で、何度も警察に引きとりにいきました。一緒に死んでしまおうかなんて思ったこともの。でも自衛隊に入ってからはちゃんとするようになって。母の日には花なんて買ってきて。彼女もいて、茶髪なんだけどとってもいい娘……千人針、最後の一針は彼女に頼めばよかったかしらって。母親が渡すよりそっちの方が……。

佳苗　今、それをお持ちに？
女１　ええ。

女１、千人針を取り出す。
佳苗、受け取ろうと近づく。有野と幸彦も側へ。
受け取った時、何かが床に落ちる。固い音。
幸彦、銃弾を拾い上げる。

幸彦　これ……。
女１　息子の体に入っていました。骨を拾う時に見つけました。
幸彦　息子さんの命を奪った……。
女１　はい。

幸彦、銃弾を有野に渡す。

佳苗　（千人針を見ながら）守ってあげられなかったのね。
有野　（弾を見て）違う。
幸彦　どうしたんですか。
有野　これは、敵のじゃない。
幸彦　どういうことですか？
有野　こいつはロシア製でも米国製でもない。そんじょそこらに出回ってるものじゃない。これは、８９式５．５６ミリ……。
幸彦　まさか、それって。
有野　日本製。メイドインジャパンだ。
佳苗　どういうことなの？
幸彦　自衛隊の銃の弾。
佳苗　自衛隊のって……。
幸彦　息子さんを撃ったのは味方の……。
女１　ほんとなんですか！
佳苗　この人、昔勤めてたの。銃をつくっている会社に。
女１　息子は、味方に撃たれたんですか。
有野　事故かもしれない。
佳苗　何てこと……。
女１　味方に……。

幸彦　千人針は役に立たないんです。
女１　え……。
幸彦　千人針は、味方の撃った弾はよけることはできないそうです。

暗転。

10

同じ場所。
乙子と由美、幸彦が作業中。

幸彦　フレンドリーファイアー。
由美　フレンドリーファイアー？
幸彦　味方の流れ弾です。結構多いらしい。昔の戦争でも最近の戦争でも。公にしないし、統計なんてないけど。
乙子　全然フレンドリーじゃない。
幸彦　過失でなく故意の、意図的なものもあったようです。退却した者や脱走者を撃ったり、それから上官殺し。
由美　そんなのがあったの。
幸彦　どこの国の軍隊にも。
乙子　その人のお母さん、自衛隊を訴えないの？
幸彦　しないって。そんなことしたら息子がもっと惨めだからって。
乙子　そうか……。
由美　有野のママが銃をつくる会社に勤めてたなんて。
幸彦　品質管理の課長までやってたそうです。
乙子　私と同じだ。
幸彦　辞めてこの店、始めたんですよね。銃器メーカーからまじないグッズ店か。何があったんでしょうね。
乙子　（女１の千人針を見つけ）これか。
由美　置いてったの？
幸彦　ええ……さすがのママも再生しようとは言わなかった。
由美　捨てちゃうわけにもいかないだろうし。

こういうものって、ご供養とかした方がいいのかしら。

幸彦　針供養？

乙子、じっと千人針を見ている。

乙子　これ……。

幸彦　結び目の数、ちゃんとあるだろ。数えてやった。

乙子　これって……。

幸彦　何だよ。

由美　うちのなんでしょ、違うの？

乙子　うちのだ。バッチもんでもコピーでもない。『萬多璃守』純正品……じゃなくて、ここんとこ。

由美　どうかしたの？

乙子　ほら、ここんとこ（見せる）。

由美　わからないわ。

乙子　縫い目が字になってる。

由美　字に？

乙子　カタカナで。

由美　これ？　そう言われれば……ニ、かしら（宙に書く）……ケ（書く）……点々があるわね。じゃあ、ゲ？　それからこれ……ロ（書く）？　ロかしら。

幸彦　ニゲロ。

由美　ニゲロ？　ニゲロ……逃げろ。

乙子　逃げるが勝ち。

由美　これ、幸彦君が？

幸彦　僕じゃないです。一応男ですから。

乙子　これは……。

由美　オトちゃん、誰が縫ったのかわかるの？

乙子　私は品質管理課の課長だ。誰の手かぐらい一目でわかる。

由美　誰なの？　楽寿園の？

乙子　佳苗さんだ。

由美　佳苗さん……。

乙子　玉止めのやり方に特徴がある。それだけじゃない。結び目が全部で七十八。

由美　よく見なければ気がつかないわね。

乙子　出荷する時、あれだけしつこくチェックしたのに。

幸彦　撃たれた自衛官は佳苗さんのメッセージに気づいたのかも。

乙子　その人、部隊から逃げようとして味方に撃たれたのか？

由美　脱走？

幸彦　わざと撃たれるような行動をとったのかも。

由美　自殺ってこと？

幸彦　死ぬ気があったかどうかはわかりません。でも、身を傷つけてまで戦線を離脱しようとした兵士はいました。

乙子　ニゲロ、か……。

由美　佳苗さん、お兄さん失くしてるから。

幸彦　あの時代の母親も奥さんも恋人も、ほんとは千人針にこう書きたかったんでしょうね……ニゲロって。

乙子　自衛隊御用達は無理だな。

由美　いいわよ、そんなの。

有野、事務室から出てくる。

有野　ほら乙子、できたわよ。（俊子の手術のための千人針を渡し）ああ、肩凝った……どしたの？

乙子　何でもないのだ……どれ、ママの担当分を厳しくチェックするのだ。

有野　よろしく。

由美　ママが銃器メーカーに勤めてたなんて知りませんでした。

有野　話さなかった？　佳苗さんも俊子さんも知ってるわよ。

乙子　（チェックを終え）かなりひどいできだが、まあ気は心だから。

有野　何よ、その言い方……幸彦よりましでしょ。

幸彦　僕の方が絶対うまいです。

由美　手術、来週の月曜日です。

幸彦　間に合いましたね。

乙子　早速届けに行くのだ。

有野　俊子さん、泣いちゃうわね。

由美　ええ。

乙子　ママ、どうして会社やめたの？

有野　……人殺しの道具じゃない、所詮。

乙子　……。

有野　私のつくってたのは競技用じゃないの。猟につかうわけでもない。人を撃つための道具。人間を殺すための道具。

幸彦　……。

有野　兵士の妻を悲しませる道具、恋人を悲しませる道具……母親を悲しませ、姉妹を悲しませ、子供たちを悲しませる道具よ……そんなものつくる会社にどうして入ったかって言いたいんでしょ。ほんとにたまたまなの。大学出ても就職先が全然ない時代で、知人のコネでやっとこさもぐりこんだの……自衛隊に納めるだけだって聞いてたから。自衛隊だけってことは、人を殺さない銃ってことでしょ。ただのお飾り。そう思って……。

幸彦　なぜお守りの店を？

有野　人を悲しませるものでなく、人を慰めるものを。なーんてね。

由美　人を幸せにするもの。

有野　こういうやつよ……あら？

等身大ボージョボー人形の女の手が後ろで結ばれているのに気づく。

幸彦　どうしたんですか？

有野　この子、手が後ろで結ばれてるでしょ。これ、金運アップのまじないなの……乙子のしわざね。

幸彦　結び方にいろんな意味があるんですね。

有野　恋愛の場合、お互いの片足を結ぶと出会いがあるの。うまくいくためには手と手、足と足を結び。結婚まで願うなら両手両足を結ぶの……そうだ由美、ひとつ持ってき

なさいよ。八掛けでいいから。

由美　いいです。家、狭いし。それにもう願いはかなってますから。

有野　はいはい、ごっそさま。

乙子　（俊子のための千人針を掲げ）ママ、こういうの売ろうよ。

有野　え？

乙子　こういうの……弾よけなんかでなくて。難しい手術が、命がけの手術が成功するようにって願いを込めた千人針……うちでつくってあげるんじゃない。その人のことを心配してるみんなでつくる。男でも女でも。大人でも子供でも……『手術必勝』って書いた布と赤い糸と針のセットを売る。

幸彦　僕もそれ、いいと思います。

由美　それなら安く作れるけど、三万円じゃ売れないわね（笑）。

幸彦　三千円がいいとこです。

乙子　難しい手術をする人なんて、日本中で年間何万人もいるはず。三千円だって大儲けだ。私のパテントは５％でいい。

有野　何よ、乙子。パテント取る気なの！

乙子　だって入学金が……わかった。ママと私の仲だから特別に３％に負けよう。

有野　どんな仲よ……１％ね。

乙子　えーっ、それじゃワンセット売れても三十円じゃないか。

有野　それで十分。

乙子　字も書いてあげるから。

有野　それは絶対おことわり！　あんたの字、小学生よりひどいじゃない。

乙子　大胆な水着の写真、つけてもいい。

有野　そんなもんいらん。

佳苗、飛びこんでくる。

由美　佳苗さん。

佳苗　死んだわ。

幸彦　えっ。

乙子　俊子先輩が？

佳苗　違うわよ。自衛隊がまた。戦死。シリアの。今度は三十六歳。
由美　主人と一緒……申年です。
有野　狙撃なの？
佳苗　撃たれたらしい。
幸彦　まだ増えますね。
有野　ああ……。
由美　お子さんがいたかも。
佳苗　そんな人まで派遣するんだね。
幸彦　おそらく隊長クラスでは。
乙子　千人針、してたかな。
由美　また味方の弾なんてこと。
乙子　またうちのなんて……。

暗転。

11

同じ場所。
乙子、幸彦、作業中。

乙子　手術、もう始まってるかな。
幸彦　始まってる。
乙子　長くかかるの？
幸彦　母さんは六時間くらいだった。
乙子　そんなにかかるのか。
幸彦　他の臓器や血管にからまってると、もっとかかるんじゃないかな。
乙子　（溜息）……。
幸彦　佳苗さんと由美さんがついてるから。
乙子　うん……。
幸彦　千人針、喜んでた？
乙子　大笑い。「これ、虎なの？　カバみたいだね」だって。ママに顔のところを任せたのが失敗だった。
幸彦　指、血だらけにしてたぞ。
乙子　俊子先輩の痛みにくらべれば屁でもない。
幸彦　そうだけど。
乙子　サッちゃんに会いたがってた。

幸彦　そう……。

乙子　俊子先輩の息子さん、腹巻きしてたんだって。

幸彦　腹巻き？

乙子　暴走して事故って、病院へ着いた時にはもう死んでた……特攻服の下に腹巻きしてたって。子供の頃からしてたやつ。ゴムが入ってるから。伸びるから。ヨシヒコってカタカナで縫いとりが、俊子先輩が、失くさないようにって。

幸彦　ヨシヒコ……。

乙子　ヨッちゃんだ。

幸彦　……。

乙子　特攻服に金の糸で、「止めてくれるな、おっ母さん」って……馬鹿だ。大馬鹿だ。偏差値ゼロだ。

幸彦　大丈夫。手術、上手くいくよ。

乙子　いかなくてたまるか。

有野、事務所から出てくる。

有野　乙子、これ（千人針を渡す）。

乙子　……うちのじゃない。

有野　ばあちゃんのよ。実家から送ってきたの。ばあちゃんの行李の中から出てきたんだって。一番奥に。

乙子　亀乃ばあちゃんの、間に合わなかった千人針？

有野　そう。

幸彦　ほんとにあったんですね。

有野　何よ、作り話だと思ってたの？

幸彦　すみません。半分ぐらいは。

乙子　ママ、これ、ちゃんとできてるじゃないか。ざっと見ただけでも、千人分ありそうだ。

有野　そう。完成品。

幸彦　できていたのに渡さなかったんですか？　それとも渡せなかった？

乙子　違うな。うんと古い糸もあれば新しいのもある。きっと何年もかけて完成させた

んだ。

有野　ばあちゃん、内緒で老人クラブの友だちなんかに頼んだんだよ。家族には知られたくなかったろうし。

乙子　天国で恋人さんに渡すつもりだったんだ。

有野　心残りだったんだね。

幸彦　これ、お墓に入れてあげなくていいんですか？

有野　お墓にはじいちゃんも入ってるんだから、まずいんじゃない？

幸彦　そうですね（笑）。

乙子　初恋の相手は永遠なのだ。

有野　何よ、知った風なこと。処女のくせに。

女２が入ってくる。歳恰好も雰囲気も由美にそっくり。

女２　ごめんください。

乙子　はーい。

女２　こちら、まじないグッズのまん……。

幸彦　『萬多璃守』です。

女２　ここでいいんですね。お店の方？

幸彦　バイトですが。お客さんですか？

女２　ええ……。

幸彦　すみません。ここ、ネット販売オンリーなんです。直接買いに来られても、お売りできないことに……。

女２　買いに来たのでは。

有野　じゃあ、クレーム？

女２　クレームというか……。

有野　クレームはメールでしか受け付けないことになってるの。

女２　こちらの千人針のことで……三万円の。消費税、送料別の。

幸彦　クーリングオフ……。

女２　いえ、返品とかじゃなくて。

幸彦　何かお気に召さないところが。

女２　あなた……。

幸彦　は？

女２　広告の写真の人ですね、モデルの。
幸彦　はあ。
乙子　（小声で有野に）幸彦君目当てなのだ。
有野　やっぱモザイク入れときゃよかった。
女２　プロのモデルさんかと思ったら、お店の方なのね。
幸彦　あの……。
女２　（棚を見て）ダルマがたくさん……これ。
幸彦　再生するんです。
女２　そう、エコなのね。（乙子に）あなた。
乙子　へ？
女２　あなた、保証書に載っていたお嬢さんじゃないですか？　寅年の十八歳の。そうですよね？
乙子　ええ、まあ。
女２　十八針分を担当して下さったんですね。
乙子　ほんとに寅です。平成十年生れ。戸籍、偽造じゃありません。偽造は死刑です。もしお疑いなら。
女２　疑ってなんかいません。

有野、ポケットから財布を出し、札を抜く。一万円札を三枚。

有野　はい、これ。（女２に押し付ける）三万あるわ。これでいいんでしょ。
女２　私は別に……。
有野　わざわざお越しいただきましてありがとうございました。何？　消費税と送料もほしいの？　交通費も？
女２　私は……。
有野　こういうのが必ずいるの。前に『素敵な結婚相手が見つかるミラクルパワーストーン』っての売ったのよ。結構売れたわ。そしたら難癖つけてきたのがいたの。素敵な結婚相手が見つからず、精神的ダメージを受けたから慰謝料寄こせって。馬鹿じゃないの。まじないグッズよ。交通安全のお札を車につるしてたのに事故にあったら神社に損害賠償させるの？　合格祈願を

して試験に落ちたら訴えるの？　その女はね……。

乙子　こっちが精神的ダメージを受けそうな顔で。まじないグッズ買うより整形でもした方がいいような。

有野　そうよ。

女２　私は……。

有野　あなたも賠償？

女２　そうですね。

有野　ほら。

女２　そういうことができたらいいですね。

幸彦　千人針が役にたたなかった？

女２　……。

幸彦　まさか……。

女２　主人、撃たれて死にました。

乙子　自衛隊の……。

女２　私が持たせました。主人はそんなものいらないと言ってましたが、私が安心するならと思ったのでしょう。

乙子　またうちのか……。

女２　ちゃんと着けていました。でも撃たれちゃって……。

幸彦　三十六歳の……。

女２　先週納骨したんです。あんな遠くからでもちゃんと運んできてくれて。昔だったら、髪の毛ぐらいしか戻らないんでしょ。

幸彦　何も戻らないことの方が多かったようです。

女２　冷凍して、そのままで戻してくれる。そのままで……千人針も還ってきました。

有野　どうしたいの？

女２　何も……でも見てるうちに、これ、どんなところで、どんな人たちがつくったのかなって。

有野　だから写真がついてるじゃない。

女２　可愛いお嬢さん以外は目隠しがしてあったし。それから……。

幸彦　伝えたかった。

女２　葉書もついてたし。本製品に関するご意見、ご感想をお寄せ下さいって。

乙子　私がつけさせた。

女２　隊や政府に言いたい事があってもいえない。誰にもいえない。だから……八つ当たりみたいなもんですね。ごめんなさい。お国のためになんて言うけれど、よその国の戦争でしょ。お国を守ったわけじゃない。慰めてくれる人たちも、陰では自衛隊なんか行かなけりゃよかったのよって。

幸彦　ご主人は派遣を拒否できなかったんですか。

女２　しません。だって、みんな死ぬことなんて。撃たれて殺されることなんて考えないですもの。訓練中の事故以外死者を出さなかった軍隊。戦死者のいなかった軍隊ですもの。でも……。

幸彦　でも？

女２　主人は現地へ行ってはじめてわかったの。死ぬかもしれないって。でもその時は遅かった。砂漠の真ん中に逃げるところも隠れるところもない。ほんとは怯えていたんだと思う。でも部下たちの手前、そんな様子は見せられない。

乙子　フレンドリーファイアー。

女２　え？

幸彦　味方の流れ弾ではないかと言ってるんです。千人針は味方が撃った弾には効果がないんです。

女２　主人が味方に？　部下に撃たれたとでも仰るんですか？

幸彦　上官殺しの例はあります。

女２　違うと思います……主人が撃たれたのは、千人針の効果がなかったのは、私のせいなんです。

幸彦　あなたの？

女２　主人には愛人がいました。愛人には子供がいました。私にはいません。できなかったんです。

有野　できなかったのは、あんたの旦那の方に原因があったのかも知れないじゃない。愛人の子だってほんとは……。

女２　そうかも知れません。でも私は主人に子供をつくってあげられなかった。だから、最後の一針は、そんな私よりもあの人の方がいいと思いました。

幸彦　ご主人の愛人に縫ってくれって、頼んだんですか？

女２　断られると思っていました。それがあの人、縫ってくれた……当然だって顔で。

乙子　あなたも縫ったんだ。

女２　……。

乙子　あなたも縫った、千一番目を……結び目は千ちょうどでなくちゃならない。多くても少なくても利き目がない。あなたが千人針を役立たずにしたんだ。

有野　逆よ。

乙子　ママ……。

有野　最後の一針を縫ったのはあんたで、何も知らない愛人の女が縫ったのが千一番目。

幸彦　それなら、千人針を駄目にしたのは愛人ということに。

女２　……セックスなんです。

幸彦　え？

女２　セックスです。セックスの回数。私、日記つけてましたから……結婚して十年なのに千回に足りません。

有野　千回って、あんた……。

女２　あの人はきっと主人に、私よりたくさんやってもらったんだわ。だから子供もできた。

有野　何言ってんのよ！

乙子　千回が多いのか少ないのかわからん。

女２　検査したんです、何度も。何も問題ないって言われました。だからきっと回数が足りなかったんです……誰のせいなの？

有野　壊れてる、この人。

女２　誰のせいなの？

幸彦　え？

女２　いったい、誰のせいなの！

女２、千人針を乙子に投げつける。
暗転。

12

同じ場所。
乙子と幸彦。

幸彦　クルドには女性部隊がいるんだ。若い子だけじゃなく、お母さん兵士までいるんだって。イスラム国の連中は彼女らをひどく恐れてる。女に殺された男は天国へ行けないから。

乙子　女性兵士の千人針は男たちがつくるんだろうな。

幸彦　千人針なんてあるかな。

乙子　似たようなまじないグッズはきっとある。女性兵士だって撃たれるのは怖い。同じだ。逃げるが勝ちだ。

幸彦　志願制だと思うよ。

乙子　彼女らはリボンの騎士だ。

幸彦　リボンの騎士って？

乙子　体は女でも心は男。

幸彦　性同一……。

乙子　うちの父さんは猛烈に男の子がほしかった。なのに私にはちんちんが無かったので、やけくそでオトコなんて名にした。

幸彦　やけくそで名前はつけんだろ。

乙子　結果、半端なくいじめられた。まあ、片っ端からたたきのめしたが。でも父さんのことはずっと恨んで、大きくなったら沖縄へ嫁にいってやると決めていた。

幸彦　何だそりゃ？

乙子　沖縄には「恩納」という苗字がある。恩納さんと結婚すれば、私は「恩納乙子」になる。

幸彦　オンナオトコ。そっちの方がやけくそだぞ。

乙子　乙子は本来オトゴと読んで末娘の意味だが、私は一人娘だ。父さんがどんなつも

りでつけたのか、ほんとのとこはわからん。真相を吐かせる前に死んでしまった。小学校のとき。

幸彦　そうか……。

乙子　私も幸彦君と同じ父無し子だ。

幸彦　……。

乙子　でも乙の字は気にいってる。針の形だから。

幸彦　針？

乙子　釣針だ。ほら（宙に書く）。

幸彦　（宙に書く）なるほど。

乙子　この釣針は鍼灸の鍼と同じだ。

幸彦　そりゃ違うだろ。

乙子　イ、タイを釣り上げる。

幸彦　鯛を釣るって言いたいのか。イタイとタイ、かなり強引だな。

乙子　お腹がすくのもつらいが、痛いのもつらい。幸福とはどこも痛くないことだ。

幸彦　それはわかる気がする。

乙子　日本の兵隊さんはお腹がすくし、そこら中痛いし、まさに不幸のどん底に追いやられ、あげくに死んだ。酷い話だ……誰のせいなんだ。針千本飲ましてやりたい。

幸彦　……。

乙子　唯一、陣痛は幸福な痛みだというが、処女の私にはわからない。

幸彦　ウミガメ。

乙子　カメ？

幸彦　ウミガメは産卵するとき涙を流すっていうだろ。あれ、やっぱ痛いのかな。

乙子　あれは塩分を含んだ粘液を出してるのだ。泣いてるわけではない。眼の玉の乾燥を防いでいる。

幸彦　鍼灸師になって、みんなの痛みをとってあげたいっていうの？

乙子　タクシードライバーの父さんは若い頃から腰痛に苦しんでいた。だから私は抱っこも高い高いも、肩車もしてもらったことがない。「この痛みさえなかったらなあ」といつもぼやいてた。「痛いの痛いの飛ん

でけー」と可愛い娘がおまじないをしてやったが、飛んでいかなかった。結局、ただの腰痛ではなく、やたらと長いカタカナの名前の難病だった。

幸彦　それが……。

乙子　痛み止めなんてまったく効かず、最期まで苦しんだ。

幸彦　そうか……。

乙子　西洋医学には限界がある。

幸彦　それで東洋医学なのか。

乙子　一寸法師は実は鍼灸師だったという話がある。

幸彦　針の刀を持ってたから？

乙子　考えても見ろ。あんなちっこいのが、プロレスラーみたいな鬼にどうやったってかなうわけない。あれは肩凝りに悩んでいた鬼に、「旦那、私めが鍼で治してあげますよ」とかいってとりいったのだ。

幸彦　お姫様を助けたんじゃないの？

乙子　それは違う。一寸法師は、美人だけれど偏差値の低いお姫様をかどわかしたのだ。すっごい悪なのだ。

幸彦　でも最後には、お姫様が打出の小槌で一寸法師を大きくしてやるんだろ。

乙子　あれも実はお姫様は一寸法師を叩き殺すつもりだったのだが、下手を打ったのだ。つくづくドジな女だ。

幸彦　イメージ狂うな。

乙子　鯛を釣るのは七福神のエビスさんだ。お目出度いのだ。エビスさんはちょっと変わった神様だ。私も変わっているとよく言われる。まあそういうわけで、残念ながら私はリボンの騎士ではない。

幸彦　どういうわけだよ（笑）。

乙子　リボンの騎士だったら、千人針を縫う資格があやしくなるし。

幸彦　戸籍、ちゃんと女になってるんだから。僕なんて、男だってことも証明できない。日本人ってことも。

乙子　幸彦君、もしかして無戸籍児？

幸彦　そうだよ。

乙子　それで給食のこと。

幸彦　学校へ行ったことはない。偽学生で大学行った以外は。でもね、小さい頃は同じ歳の子供たちとよく遊んだよ。家から離れた公園なんかで。でもね、ばれそうになると二度とそこへは行かない。また別の公園に行って友だちをみつける。

乙子　学校、行きたかった？

幸彦　行きたいと言えば、母さんを困らせるから。

乙子　どうして幸彦君の母さんは無戸籍なんかにしたんだ？

幸彦　母さんのせいじゃないよ。母さんも無戸籍なんだ。じいちゃんのせいだ。じいちゃんが幽霊になったせい。母さんは幽霊の子で、僕は幽霊の孫。幽霊に戸籍はない。

乙子　わけがわからん。

幸彦　じいちゃんは戦時中、徴兵を逃れるために医師をだまくらかして死亡届を手に入れ、それを本籍地に提出したんだ。

乙子　死んだことにしたのか！　それなら召集令状は来ないな。

幸彦　ほんとはそれだけでは駄目で、埋葬証明書とかいろいろ必要だったんだけど。何しろごたごたしてた時期だったから、受理されちゃったらしい。

乙子　戦争終わったら戻せばよかったのに。

幸彦　しなかったんだ。じいちゃんは金儲けは上手らしく、大金持ちになった。でも幽霊だから税金を納めなくていい。

乙子　そうか、ずるいな。

幸彦　それなら幽霊として終わってくれればいいのに、歳をとってから子供をもうけた。それが僕の母さん。母さんも無戸籍で生涯を終えた。

乙子　幸彦君、幽霊の三代目か。

幸彦　そういうこと。

乙子　父さんは？

幸彦　不明（笑）。どこの誰やら。

乙子　じゃあ、幸彦君の名前、誰がつけたの？
幸彦　じいちゃんじゃないかな。やけくそかどうかは知らないけど。幸彦ってね、日本の神話に出てくるんだけど。失くしたものを探す人の名だよ。
乙子　何を失くしたの？
幸彦　釣針、兄さんから借りた。
乙子　釣針を失くしたのか……。
幸彦　兄さんの名前も幸彦なんだよ。
乙子　幸彦君も探してる？
幸彦　そうだな……。
乙子　病気になるとたいへんそう。
幸彦　たいへんだよ。保険証がないから。
乙子　それで歯磨きか。
幸彦　頑丈なんだけどね。歯だけは。
乙子　あの痛いのは我慢できんし……あ、パスポートもつくれないな。
幸彦　海外には行けない。
乙子　うーん、パスポートがないのか。新婚旅行は海外でなきゃ私は嫌だぞ。
幸彦　え？
乙子　何でもない。
幸彦　大学で韓国人の友だちができた。在日の。日本で生れてずっと日本で暮らしてるのに兵役に就かなきゃならないって。
乙子　そうなのか。気の毒だ。
幸彦　いじめられるそうだ。韓国語より日本語の方がうまいから。
乙子　じゃあ、幸彦君は徴兵されないんだ。
幸彦　日本人じゃないから。でも日本人にしてくれるなら徴兵されてもいい。
乙子　……。
幸彦　徴兵されてもいいけど……。
乙子　けど？
幸彦　僕は輜重兵になる。
乙子　輜重兵？　佳苗さんの兄さんの？
幸彦　荷物を運ぶ兵隊になる。みんながお腹すかないように。食べ物をいっぱい運ぶ。それならいい。
乙子　今の軍隊、そんなのあるかな。それに

輜重兵にも弾は飛んでくるんだぞ。

幸彦　でも撃たなくていいんだ。殺さなくてもいいんだ。

乙子　……。

幸彦　殺さなくていい。

乙子　……千人針、どうする？

幸彦　持ってくよ。逃げるが勝ちじゃなく、「運否天賦」って書いてくれ（笑）。

乙子　それとは別に、幸彦君には私特製のお守りを持たせてやろう。

幸彦　何それ？

乙子　古来より伝わる霊験あらたかなタマよけだ。なんせ私は処女だから。詳しいことは恥ずかしいから聞くな。

幸彦　何だかわからん（笑）。

乙子、歌い出す。

乙子　**輜重輸卒が兵隊ならば**

幸彦　うん？

乙子　**蝶もトンボも鳥のうち**

幸彦　それ、何？

乙子　佳苗さんに教わった……**焼いた魚が泳ぎ出し、絵に描くダルマが手足出し、電信柱に花が咲く**

幸彦　……電信柱に花が咲くといいな。

暗転。

13

同じ場所。誰もいない。

特大のダルマが中央に。

左右に七回揺れる。八回目に割れる。

人の手足が出てくる。

俊子　よいしょ……よっこらしょっと。

ダルマの中から俊子が出てくる。パジャマ姿。

俊子　ああ、肩凝っちゃった。

あたりを見回す。

俊子　誰も……いないわね。今日、休みだったかしら。そんなはずないよね。

事務室をのぞく。

俊子　ママもお出かけ？　誰か一人ぐらい……あ、お昼かな？

ボージョボー人形が目にとまる。

俊子　あら？

以前は女の人形の手が結ばれていたのが、今は男女の手と手、足と足が結ばれている。

俊子　（人形にふれ）オトちゃんね。

歯ブラシをくわえた幸彦、外から戻ってくる。

俊子　サッちゃん。

幸彦　……俊子さん。

俊子　ごぶさた。

幸彦　もう平気なんですか？

俊子　大丈夫。心配かけたわね。

幸彦　病院から直接？

俊子　サッちゃんの真似してダルマに入ってきたの。

幸彦　その格好で？

乙子、楊枝で歯をほじりながら。

乙子　ああ食った食った（げっぷ）。

俊子　……オトちゃん。

乙子　あ。
俊子　お昼？
乙子　……。
俊子　俊子先輩、只今生還しました（敬礼）。
乙子　……うー。
俊子　びっくりした？
乙子　わあーっ！

乙子、俊子にしがみつく。

俊子　ごめん。ごめんね。
乙子　……いつ退院したんだ？
俊子　元気になったのにちっとも退院させてくれないから、エスコートしちゃった。
乙子　エスケープ。病院、脱走したの？
俊子　ほんとに元気なのよ。ごはん、いっぱい食べられるし。寝られるし。
乙子　しょうがないなあ。
俊子　ダルマさんに運んでもらいました。
乙子　おしっこしなかった？
俊子　由美ちゃん、今日休み？
乙子　病院に寄ってくるって。
俊子　どこか悪いの？
乙子　生理がないのだ。もしかするとお目出たなのだ。
俊子　あらもう？　早いわねえ。
乙子　たくさんしてるから。毎年生むってはりきってる。生めよ増やせよ。亀乃ばあちゃんみたいに八人はほしいって。
俊子　ママは？
幸彦　佳苗さんと老人ホームに。
俊子　回収？　売れてるんだ。
幸彦　ええ。
俊子　これ（手術必勝の千人針を出す）。
乙子　おおっ！
俊子　さすがにつけたままとはいかなかったけど。執刀医の先生がね、手術室に置いてくれたの。
乙子　話のわかるドクターだな。
俊子　「カバのお守りのおかげで手術うまくい

きましたね」だって。

乙子　やっぱカバなんだ。

俊子　新製品にするんだって？

幸彦　ええ、まあ。

乙子　俊子先輩にはぜひ体験記を載せてもらいたい。

俊子　私はこれで無事手術室から生還しましたってか（笑）。

乙子　だって本当だし。

幸彦　術後も順調だったんですね。

俊子　うん……息子の夢ばかり見てた。

乙子　……。

俊子　あの子ね、ほんとに大工さんになるつもりでいたの。でも、これが最後の召集だからって……あの時、行くなって言えばよかった。どんなことしても止めればよかった。人生にはとりかえしのつかないこともあるって佳苗さんは言ったけど、私にとってあれがそう……小さい頃、腹巻きして「僕、チャンピオンだよ」って（声がつまる）……手術中ね、あの子の、ヨッちゃんの声が聞こえた。「母ちゃん、頑張れ」って。痛いのなんて何でもなかった。だってあの子は、痛いと思う間もなく。

乙子　……。

俊子　やさしい子だったの。

乙子　うん。

俊子　自衛隊の、亡くなられた子のお母さん、来たんだって。

幸彦　ええ。

乙子　愛人のいる隊長の奥さんも来た。

俊子　そう……。

幸彦　また誰か来るかも。戦死者、増えてますから。

乙子　先週は三人やられた。

幸彦　昨日も一人。

乙子　そのうち今週の戦死者数なんてのが、役場に掲示されるようになる。

俊子　交通事故の死者数みたいに、誰も気にとめなくなるのかしら。他人事になってし

まうのかしら。

銃声。

自動小銃の連続射撃音。

爆音。閃光。

暗転。

壁に映し出される映像（イラク戦争時の米陸軍の戦闘シーン。英語のナレーション）をバックに、有野と佳苗が戦死者名簿を読み上げる。

有野　田中一等陸士。埼玉県出身。四月二十八日、戦死。二十一歳、亥年。

佳苗　山本一等陸尉。山梨県出身。四月三十日、戦死。三十六歳、申年。

有野　渋沢三等陸曹。福井県出身。五月三日、戦死。二十八歳、辰年。

佳苗　小早川陸士長。広島県出身。五月三日、戦死。二十三歳、酉年。

有野　齋藤一等陸士。三重県出身。五月三日、戦死。二十二歳、戌年。

佳苗　中原二等陸曹。大分県出身。五月三日、戦死。二十六歳、午年。

棚に並べられたダルマは迷彩柄に。目は横一文字に墨が塗られている。壁には旭日旗。二人の台詞に重ねて乙子、歌う。

輜重輸卒が兵隊ならば
蝶もトンボも鳥のうち
焼いた魚が泳ぎ出し
絵に描くダルマが手足出し
電信柱に花が咲く

有野　遠山一等陸士。岩手県出身。五月四日、戦死。二十二歳、戊年。

佳苗　藤森一等陸士。長野県出身。五月五日、戦死。二十二歳、戊年。

有野　野口陸士長。岡山県出身。五月七日、

戦死。二十四歳。申年。

佳苗　宮澤一等陸曹。新潟県出身。五月八日、戦死。二十七歳、巳年。

有野　柳一等陸士。福岡県出身。五月十日、戦死。二十一歳。亥年。

佳苗　井上一等陸士。愛媛県出身。五月十日、戦死。二十二歳、戌年。

台詞に重ねて乙子と幸彦、歌う。

ウラシマタロウが兵隊ならば
タイやヒラメも海ゆかば
助けたカメと地獄行き
絵にも描けないおぞましさ
月の沙漠で釣りをする

有野　薬師丸ひろ子はマシンガンをぶっ放し、「快感……」とつぶやいた。非力な女子高生に自動小銃が撃てるはずはないといった人がいるが、それは違う。大型拳銃のような反動はないから、女子高生にだって撃てる。勉強しないで目のいい女子高生なら的に当てることもできる。恋愛運アップのまじない人形を枕の下に隠している処女の女子高生でもスナイパーになれる。立派な戦士に……人殺しになれる。

佳苗「あの子は必ず還ってくるよ」そういって母は戦死の報告を受けて十年、兄の名を墓碑に刻むのを拒んだ。けれど毎日お墓へ参っては、のせきれない程たくさんの食べ物を供えた。母親にとって腹をすかせた子供に何も与えてやれないことほど辛いことはない。それが鳥でも獣でも……認知症の妄想が始まった母は兄に会えるようになった。兄は出征の日のそのままの姿で、幸福そうな母の最期を看取った。

幸彦「防人に行くは誰が背と問ふ人を見るが羨しさ物思ひもせず　＊3」僕が戦場に行くその日、誰が見送ってくれるのだろう。僕は醤油も飲まず、気狂いのふりもせず、

目を針で突かず、偽の死亡届も出さず、乙種合格で出征する。「平身低頭」と書かれた千人針と女子高生の特別なお守りを持って……還れたら僕はマイナンバーをもらう。虫歯を全部治し、それからパスポート。新婚旅行は海外でないとダメだから。

乙子　山幸彦の失くした針は鯛の喉に引っかかってた。鯛はやっぱイタイのだ。戦争も痛い。きっとすごく痛い。だから戦争は不幸だ。きっとすごく不幸だ。「痛いからよそう」ってなぜ言わない。馬鹿だからか。偏差値が低いからか。女たちは千人針なんかつくるより、セックスを拒否して平和を求めろ。男たちの天国の入口、あそこを縫っちゃうって脅かせばいい……チンケなカメには何もできない。夜の浜、月に向って泣くだけだ。月は繊月、針の月。

銃声。
吊るされていたボージョボー人形の男の方だけが落下し、床に横たわる。女の人形はそれを見下ろす。

俊子　明日は五月の第二日曜。息子が花を買ってくるのを母さんたちは待っている。なのに、とりかえしのつかないことをまた始めてる……もうやめて。この国の誰かのために子供たちを。

由美が飛び込んでくる。嬉々として。

由美　できました！

了

〈引用〉

＊1「出征兵士を送る歌」（作詞　生田大三郎　作曲　林伊佐緒）

＊2「ぼくもいくさに征くのだけれど」（『竹内浩三全作品集』藤原書店より）

＊3　万葉集より　詠み人知らず。